

第2期朝来市創生総合戦略アクションプラン推進状況

基本目標1 自分らしく生き生きと活躍する「ひと」づくり

◆ASAGOiNGな人を育む

◎市民一人一人が自分らしく生き生きと活躍しながら「まち」とつながるASAGOiNGな人づくり

1 主体性・自己肯定感を育む場をつくる	1-1-1-1	子育て支援課	こども園課	学校教育課	総合政策課	市民協働課	生涯学習課
2 多様性を認め合う関係性づくりを進める	1-1-1-2	総合政策課	市民協働課	生涯学習課			
3 シビックプライドを育む機会をつくる	1-1-1-3	子育て支援課	こども園課	学校教育課	総合政策課	市民協働課	生涯学習課

◎市民一人一人が好きなこと・得意なことなどを地域社会で発揮し多様な活動を促進するひとづくり

1 市民一人一人の好きなこと・得意なことが地域活動とつながる機会をつくる	1-1-2-1	総合政策課	市民協働課				
2 人と人・地域・仕事をつなげる人を育む	1-1-2-2	市民協働課					

◆ASAGOiNGな仲間づくり

◎移住・定住の促進や関係人口の創出・拡大によるASAGOiNGな仲間づくり

1 移住・定住の取組を推進する	1-2-1-1	市民協働課					
2 関係人口を創出・拡大する	1-2-1-2	市民協働課	経済振興課				

◎結婚を希望する人の出会いの機会の創出

1 希望に応じた婚活を支援する	1-2-2-1	市民協働課					
2 自然な出会い、交流の機会をつくる	1-2-2-2	市民協働課					

◎移住者や在住外国人などの地域の受入れ体制の充実

1 移住前の地域の受入れ体制の充実を図る	1-2-3-1	市民協働課	人権推進課				
2 移住後の地域の受入れ体制の充実を図る	1-2-3-2	市民協働課	人権推進課				

◆一人一人の行動につなげる情報発信の充実

◎一人一人の行動につなげる情報発信の充実

1 多様な媒体による情報発信を充実する	1-3-1-1	秘書広報課					
2 市民自らが結果だけでなく現在進行形の情報を発信する	1-3-1-2	秘書広報課	総合政策課	市民協働課			

基本目標2 魅力ある多様な「しごと」づくり

◆内発的な経済成長

◎市内企業で働く人材の確保

1 市内企業の情報発信を行う	2-1-1-1	経済振興課	市民協働課	総合政策課	学校教育課		
2 生き方や朝来市で働き・暮らすイメージを持つ	2-1-1-2	経済振興課	総合政策課	学校教育課			
3 市内企業への就職を推進する取組を支援する	2-1-1-3	経済振興課					

◎市内企業等の稼ぐ力の向上

1 企業の経営支援を行う	2-1-2-1	経済振興課					
2 起業しやすい環境をつくる	2-1-2-2	経済振興課	市民協働課				

◎誰もが安心して希望に応じたやりがいのある働き方の実現

1 誰もが安心して働くことができる環境をつくる	2-1-3-1	経済振興課	こども園課	学校教育課	高齢福祉課		
2 多様な働き方を推進する	2-1-3-2	経済振興課					

◆交流人口拡大による経済循環活動の促進

◎朝来市の強みを生かした観光誘客の推進

1 観光資源を発掘する	2-2-1-1	観光交流課					
2 観光地としての魅力を発信する	2-2-1-2	観光交流課					

◎観光客一人当たりの観光消費額の拡大

1 周遊型観光を推進する	2-2-2-1	観光交流課					
2 滞在型観光を推進する	2-2-2-2	観光交流課					
3 観光受け入れ体制を強化する	2-2-2-3	観光交流課					
4 観光推進体制を強化する	2-2-2-4	観光交流課					

◎インバウンド観光の推進

1 訪日外国人旅行者の受け入れ体制づくりを行う	2-2-3-1	観光交流課					
-------------------------	---------	-------	--	--	--	--	--

◆儲ける農林畜産業への転換

◎農林畜産業の担い手の確保・育成

1 生業としての農林畜産業の担い手を確保・育成する	2-3-1-1	農林振興課					
2 農林畜産業に多様な人が多様な関わり方をする	2-3-1-2	農林振興課					

◎農業所得向上に向けた取組の推進

1 農産物の販路を拡大する	2-3-2-1	農林振興課					
2 農産物の高付加価値化を図る	2-3-2-2	農林振興課					

◎生産量拡大や作業負担軽減・低コスト化に向けた新たな農林畜産業の推進

1 生産量拡大や作業負担軽減のための設備・機械の導入拡大を推進する	2-3-3-1	農林振興課					
2 新技術の導入検討を行う	2-3-3-2	農林振興課					

◎森林の利活用の推進

1 林業の成長産業化を推進する	2-3-4-1	農林振興課					
2 森林が持つ公益的機能の増進を図る	2-3-4-2	農林振興課					

基本目標3 誰もが希望を持ち、心豊かに安心して暮らせる「まち」づくり

◆地域コミュニティを基盤とした誰にも居場所と役割のあるまちづくり

◎地域特性を生かした地域の主体的なまちづくりの推進

1 多様な主体による主体的・自律的な地域経営を推進する	3-1-1-1	市民協働課						
2 多様な主体による主体的・自律的な地域経営を支援する	3-1-1-2	市民協働課						

◎一人一人が地域とつながりを持ち安心して自分らしく暮らすことができる地域共生社会の実現

1 地域での多様なつながりの場をつくる	3-2-1-1	社会福祉課	高齢福祉課	地域包括支援センター				
2 地域で孤立しがちな方とのつながりをつくる	3-2-1-2	社会福祉課	高齢福祉課	地域包括支援センター				

◆誰もが安心して楽しく暮らせるまちづくり

◎在住外国人など多様な人が安心して暮らすことができる多文化共生社会の実現

1 在住外国人などの暮らしの困りごと等を把握する	3-2-2-1	人権推進課						
2 まちの情報を在住外国人に伝える	3-2-2-2	人権推進課						
3 在住外国人と地域の人とのつながりをつくる	3-2-2-3	人権推進課						

◎誰もが生きがいを感じ健やかで幸せに暮らすことができる健幸づくりの推進

1 健幸づくりへの意識の向上を図る	3-2-3-1	健幸づくり推進課						
2 疾病・介護予防や健康増進の取組を推進する	3-2-3-2	健幸づくり推進課	高齢福祉課	地域包括支援センター				

◆まちづくりや市民の暮らしを支えるための連携の強化

◎地域間連携・政策間連携などによる効果的・効率的な事業の推進

1 市内の多様な主体相互の連携による事業推進を展開する	3-3-1-1	市民協働課	学校教育課	経済振興課				
2 市外の多様な主体との連携による事業推進を展開する	3-3-1-2	総合政策課	観光交流課					

◎持続可能な地域公共交通による安心した暮らしの実現

1 多様な主体が連携・協働する	3-3-2-1	都市政策課						
2 新たな移動手段の導入・検討を進める	3-3-2-2	都市政策課						

◎市民の多様な活動や暮らしを支えるための公共施設の適正配置

1 暮らしや活動に応じた利用しやすい公共施設にする	3-3-3-1	総合政策課						
2 公共施設の持続可能な運営を行う	3-3-3-2	総合政策課						

◎生物多様性の保全と持続可能な利用による自然共生社会の実現

1 生物多様性について市民一人一人が理解を深め、意識を持ち生活する	3-3-4-1	市民課	文化財課	農林振興課	観光交流課			
-----------------------------------	---------	-----	------	-------	-------	--	--	--

第2期朝来市創生総合戦略アクションプラン推進状況

基本目標1 自分らしく生き生きと活躍する「ひと」づくり

◆ASAGOiNGな人を育む

◎市民一人一人が自分らしく生き生きと活躍しながら「まち」とつながるASAGOiNGな人づくり

1 主体性・自己肯定感を育む場をつくる

■目標に向けたアクション体系

1 子どもから大人まで多様な人や地域が互いにつながる場をつくる ①家庭や地域・学校などで自己肯定感を育む言葉かけ ②地域や学校などで多様な人との対話の場づくり ③子どもから大人までが体験・挑戦する機会づくり 2 自分の考えが認められたり、反映されたりする場をつくる ④地域や学校などで考えを発表・発信する機会づくり ⑤好きなこと・得意なことを地域や学校で発揮できる機会づくり
--

■取組状況と今後の予定

課名	令和5年度までの取組状況	KPIの状況を踏まえた検証	目標達成に向けての取組・改善内容
子育て支援課	子育て学習センターの子育てサポーターの活動を通して地域とのつながりや地域での多様な人との交流を推進し、地域での子育ての機運の醸成を図った。	地域からの参画者や利用者が限定的となっていることから、利用者ニーズの再確認や地域との関係性拡大に向けた取組が必要。	利用者ニーズについての調整を行い利用拡大を図るとともに、地域との深化を図る場づくりを検討する。
こども園課	在園中の異年齢児活動を通じて、主体的に活動できる教育・保育を実施している。	目標達成に向けた基礎づくり（幼児教育）はできている。	研究対象園の研究テーマに「自己肯定感」を設定しており、結果を全園職員で共有していく。
学校教育課	自然体験、職場体験活動や地域行事への参加、伝統・文化・芸能体験など様々な体験教育に取り組んでいる。	自然体験、職場体験活動や農業体験、伝統・文化・芸能体験など様々な体験活動に取り組んだ。	引き続き、体験活動を充実させ、すべての児童生徒が達成感や成功体験等を得ながら学びへの意欲や自信につなげていく取組を進める。
総合政策課	市内県立高校と連携し、高校の授業に地域人材を講師として招聘し、対話等をととして主体的な学びを展開している。商品開発など実践的な学びにもつながっている。	子どもから大人まで多様な学びの場が充実していると感じている市民の割合は低く（市民アンケート結果）、KPIの市民の愛着や誇り持つ市民の割合にも影響していると考えられる	高校生の多くが地域とつながることができるよう学校の授業を中心に展開してきたが、高校生だけでなく子どもから大人までが参画できる場づくりを行う。
市民協働課	市内全ての各地域自治協議会のまちづくり計画の見直しを行うことに合わせ、住んでいる地域を大切に、誇りに思う気持ちを対話により育んできた。	コロナ禍において地域の事業展開に制限がかかったことにより目標値を下回っている。	コロナによる規制制限も解除されたため、見直されたまちづくり計画に基づき市民の参画を促進していく。
生涯学習課	継続した学びの場として、市民講座受講後に自主的に活動する自主運営講座・同好会等団体を市民講座の参加者募集時や受講後に紹介するなど情報発信している。	自主運営講座・同好会活動の団体は増減はあるもの徐々に定着が図られているが、高齢化により休止となる団体もあり、後継者の育成に向けた取組を強化することが必要である。	継続した学びの場となるよう、自主運営講座・同好会の活動内容を工夫しながら情報発信し参加を促していくとともに、生涯学習人材バンク制度の利用促進を図り、地域の人財発掘や育成につなげていく。

第2期朝来市創生総合戦略アクションプラン推進状況

基本目標 1 自分らしく生き生きと活躍する「ひと」づくり

◆ASAGOiNGな人を育む

◎市民一人一人が自分らしく生き生きと活躍しながら「まち」とつながるASAGOiNGな人づくり

2 多様性を認め合う関係性づくりを進める

■目標に向けたアクション体系

1 地域とつながり、知り、関わる機会をつくる └ ⑥誰もが集い、つながり、多様な価値を発信する場づくり └ ⑦テーマ・分野ごとに気軽に集い、つながる場づくり

■取組状況と今後の予定

課名	令和5年度までの取組状況	KPIの状況を踏まえた検証	目標達成に向けての取組・改善内容
総合政策課	あさご未来会議の開催により誰もが気軽につながる場づくりをすすめた。また、「みんなの合言葉」をポスターやLINEスタンプにし、互いのアクションを応援し合える雰囲気の醸成を図った。	あさご未来会議はオンライン開催を行うことで多様な人が参画できる機会づくりにはつながったが、同じ切り口の対話の場であることで、他に興味関心を持つ人たちなど新たにな人が参画する機会は少ない状況であったと言える。	オンライン等を活用し、時間等に関わらず参画の機会を増やすだけでなく、多様な価値観やテーマ・分野に対応した対話の場づくりを進める。
市民協働課	広く市民が参加できる形式で地域の会議が行えるよう、研修を開催した。	コロナ禍において地域の事業展開に制限がかかったことにより目標値を下回っている。	引き続き、多くの市民が参加し、対話による場づくりとなるよう工夫しながら取り組んでいく。
生涯学習課	誰もが自分の興味関心のあることを活かすことができる多様な学びの場として、じっくり学ぶ「定期コース」、少ない回数でチャレンジできる「トライコース」の2コースにより市民講座を開設している。	市民の多様な学びの場は徐々に定着が図られているが、参加者の固定化や高齢化傾向が見受けられ、特に若年層の学びのニーズに対応した場づくりの取組を強化することが必要がある。	各生涯学習センター間で連携しながら、幅広い年齢層の学びのニーズに対応した魅力ある市民講座を企画検討し、多様な学びの場の充実を図っていく。

第2期朝来市創生総合戦略アクションプラン推進状況

基本目標1 自分らしく生き生きと活躍する「ひと」づくり

◆ASAGOiNGな人を育む

◎市民一人一人が自分らしく生き生きと活躍しながら「まち」とつながるASAGOiNGな人づくり

3 シビックプライドを育む機会をつくる

■目標に向けたアクション体系

1 多様な人が集う機会をつくる ⑧地域や学校などで、多様な人との対話の場・体験の機会づくり ⑨学校と地域をつなぐコーディネート（学校と地域の連携） ⑩区・地域自治協議会などの地域行事への参加促進 ⑪子どもから大人までが地域行事などで役割を持つ 2 家族のつながりを大切にする ⑫家族と過ごす時間を持つ

■取組状況と今後の予定

課名	令和5年度までの取組状況	KPIの状況を踏まえた検証	目標達成に向けての取組・改善内容
子育て支援課	子育てインストラクターによる地域と子育て世代との関係性の構築を図るなど地域との連携に努めた。	子育て世代間のネットワーク構築は一定数図れたものの、地域や多様な人たちとの交流拡大が必要である。	地域と連携した活動機会を増やすなど多様な人と子育て世代が交流できるイベント等の充実を図る。
こども園課	こども園評議員会を各園で開催し、地域の方や保護者と意見交換を行い、地域に根付いた園運営につなげている。	地域と連携した園活動が出来ている。	地域の方との触れ合いの機会や地域の探索などにより、地域愛の醸成を図っていく。
学校教育課	地域に住む人々との交流や自然等に触れる体験をする特色ある学校づくり事業（あさごドリームアップ事業）に取り組み、ふるさと愛の醸成を図った。	地域に住む人々との交流や自然等に触れる体験をする特色ある学校づくり事業（あさごドリームアップ事業）に取り組み、郷土愛の向上の向上を図ることが継続して必要。	引き続き、地域人材を活用した特色ある学校づくり事業に取り組み、ふるさととの豊かな自然や伝統文化、人々と触れ合う機会をつくっていく。
総合政策課	市内県立高校に地域コーディネーターを配置し、地域人材との対話や地域での実践的な学びとなる授業を行うことで、高校生が朝来市の魅力を感じる機会となっている。	市内県立高校における取組は定着しつつあるものの、市外高校に通う高校生が多様な人につながる機会が少ないことが課題である。	隣接する養父市等と連携を図りながら、市外高校に通う生徒たちが参画できる場づくりを進める。また、高校授業以外の場づくりにおいては、高校生が参画できるよう移動手段にも配慮しながら場づくりを行う。

市民協働課	市内全ての各地域自治協議会のまちづくり計画の見直しを行うことに合わせ、住んでいる地域を大切に、誇りに思う気持ちを対話により育んできた。	コロナ禍において地域の事業展開に制限がかかったことにより目標値を下回っている。	コロナによる規制制限も解除されたため、見直されたまちづくり計画に基づき市民の参画を促進していく。
生涯学習課	地域の人材や資源を活用し、地域全体でこどもたちの学びの場を提供する場として、各地域自治協議会による地域学校協働活動の取組に対し支援している。	全小学校区で小学生を対象に地域学校協働活動の取組を進めることで、ふるさと愛の醸成や地域定住者の増加につなげることが必要である。	全地域自治協議会での活動機会の拡充や活動内容の充実に向けて各地域自治協議会と連携しながら、地域学校協働活動の取組を継続して支援していく。

第2期朝来市創生総合戦略アクションプラン推進状況

基本目標1 自分らしく生き生きと活躍する「ひと」づくり

◆ASAGOiNGな人を育む

◎市民一人一人が好きなこと・得意なことなどを地域社会で発揮し多様な活動を促進するひとづくり

1 市民一人一人の好きなこと・得意なことが地域活動とつながる機会をつくる

■目標に向けたアクション体系

1 多様な人がつながる場をつくる

└ ①地域やテーマ別など多様な対話の場づくり

2 参加しやすい場をつくる

└ ②誰もが参加できる場づくり（年齢・性別・開催時間など）

└ ③多様な手法によるつながる場の情報発信

■取組状況と今後の予定

課名	令和5年度までの取組状況	KPIの状況を踏まえた検証	目標達成に向けての取組・改善内容
総合政策課	令和4年度からオンライン版あさご未来会議を開催し、若年層や女性の参画が増える機会となった。また、市民ライター講座の開催は、女性が得意なこと・興味関心のあることから参画し、学ぶだけに留まらず、活動につながる場づくりになった。	様々な切り口による学びの場は、新たな参画者が広がるきっかけにはなっている。それぞれの部署が情報を共有しながら、学びの場から活動につながる機会づくりを多くつくるのが大切である。	オンラインを活用した対話の場づくりにより、時間等の制約に関わらず参画できる仕組みを構築するとともに、対話の人数規模やテーマなども考慮し、参画しやすい工夫を行う。
市民協働課	地域自治協議会の役員や事務局を対象にした研修会を開催し、これからの地域づくりにおける、誰もが参加できる対話の場づくりについて学ぶ機会を設けてきた。	地域づくりの学びの場は提供してきたものの、コロナ禍において地域の事業展開に制限がかかったことにより目標値を下回っている。	コロナによる規制制限も解除されたため、今後も引き続き対話の場を提供するとともに、内容もブラッシュアップしながら事業展開を図る。

第2期朝来市創生総合戦略アクションプラン推進状況

基本目標1 自分らしく生き生きと活躍する「ひと」づくり

◆ASAGOiNGな人を育む

◎市民一人一人が好きなこと・得意なことを地域社会で発揮し多様な活動を促進するひとづくり

2 人と人・地域・仕事をつなげる人を育む

■目標に向けたアクション体系

1 地域リーダーを育む

- └ ④地域リーダー等の研修・講座の開催
- └ ⑤若者が主体となって活躍できる場づくり
- └ ⑥区・地域自治協議会等での次世代リーダーの育成・継承

■取組状況と今後の予定

課名	令和5年度までの取組状況	KPIの状況を踏まえた検証	目標達成に向けての取組・改善内容
市民協働課	人と人や人と地域をつなげる手法としてSNSを活用するための研修を開催し、地域リーダーの育成を図ってきた。	地域づくりの学びの場は提供してきたものの、コロナ禍において地域の事業展開に制限がかかったことにより目標値を下回っている。	コロナによる規制制限も解除されたため、今後も引き続き地域リーダー育成の場を提供するとともに、内容もブラッシュアップしながら事業展開を図る。

第2期朝来市創生総合戦略アクションプラン推進状況

基本目標1 自分らしく生き生きと活躍する「ひと」づくり

◆ASAGOiNGな仲間づくり

◎移住・定住の促進や関係人口の創出・拡大によるASAGOiNGな仲間づくり

1 移住・定住の取組を推進する

■目標に向けたアクション体系

1 移住・定住推進に向けた仕組をつくる

- └ ①空き家バンク制度の充実
- └ ②あさご暮らし体験住宅の活用
- └ ③移住サポーターの取組の充実
- └ ④あさご暮らしの魅力の発信

2 地域の主体的な取組を推進する

- └ ⑤体験会の開催等の移住推進に向けた取組
- └ ⑥空き家管理・清掃等空き家バンクと連携した取組
- └ ⑦あさご暮らしの魅力の発信

■取組状況と今後の予定

課名	令和5年度までの取組状況	KPIの状況を踏まえた検証	目標達成に向けての取組・改善内容
市民協働課	あさご暮らし体験会の年3回程度の実施を継続している。ただし、R2及び3年度については、コロナ禍による中止、R4年度についても参加定員を絞るなどの影響があった。 都市部での移住イベントも単独出展のほか、但馬での共同出展や地域おこし協力隊募集と合同出展などにより相乗効果を図っている。 体験住宅入居中は、地元自治会との連携により、入居者支援や相談対応を行っている。	あさご暮らし体験会等体験・移住交流プログラムについても、R5年度は企画したものを中止することなく実施できたため、目標に達している。 コロナ禍による建築資材等の高騰及び消費税増税による新築控えなどがあり、R3年度は住宅補助を活用した移住者数が減少したが、R4年度以降は復調してきている。 都市部での大型移住イベントも対面開催に戻ったため、大阪・東京に出展し、移住相談件数の増加に繋がっている。	朝来市HP及び公式LINEでの新たな手法での活用により、移住相談や体験会参加申し込みのオンライン化、また移住に興味のある方に特化したLINE配信を新たに実施する。 あさご暮らし体験会の内容の工夫や、移住イベントへの移住サポーターへの協力、関係団体等との連携などを強化し、あさご暮らしの魅力の発信を図る。

第2期朝来市創生総合戦略アクションプラン推進状況

基本目標1 自分らしく生き生きと活躍する「ひと」づくり

◆ASAGOiNGな仲間づくり

◎移住・定住の促進や関係人口の創出・拡大によるASAGOiNGな仲間づくり

2 関係人口を創出・拡大する

■目標に向けたアクション体系

1 地域を知り、つながる機会をつくる

- └ ⑧体験会や対話の場など地域・人・活動の魅力を伝える場づくり
- └ ⑨朝来市出身者等とSNSなどをとおしてつながる仕組みづくり
- └ ⑩大学生等との対話の場づくり
- └ ⑪多様な人が参加できる地域活動や地域の魅力の発信

2 地域の活動を応援する仕組みをつくる

- └ ⑫ふるさと納税を活用した体験・交流プログラムづくり
- └ ⑬企業寄付金などを活用した基金の検討

■取組状況と今後の予定

課名	令和5年度までの取組状況	KPIの状況を踏まえた検証	目標達成に向けての取組・改善内容
市民協働課	あさご暮らし体験会の年3回程度の実施を継続している。ただし、R2及び3年度については、コロナ禍による中止、R4年度についても参加定員を絞るなどの影響があった。 芸術文化観光専門職大学との連携事業を実施し、起業人財交流館の認知度向上に資するイベントを開催した。 市HPで年3組の移住者ロングインタビューの掲載を継続している。	コロナ禍による建築資材等の高騰及び消費税増税による新築控えなどがあり、R3年度は住宅補助を活用した移住者数が減少したが、R4年度以降は復調してきている。 都市部での大型移住イベントも対面開催に戻ったため、大阪・東京に出展し、移住相談件数の増加に繋がっている。 あさご暮らし体験会等体験・移住交流プログラムについても、R5年度は企画したものを中止することなく実施できたため、目標に達している。	朝来市HP及び公式LINEでの新たな手法での活用により、移住相談や体験会参加申し込みのオンライン化、また移住に興味のある方に特化したLINE配信を新たに実施する。
経済振興課	牛肉やお米、岩津ねぎ等の市内特産品に加え、フォレストアドベンチャーや温泉施設、ゴルフ場やグランピング施設など、本市の自然を満喫できるアクティビティ型の返礼品の追加に努め、ふるさと納税額の増額に加え、食だけでない本市の魅力発信に注力する。	体験型返礼品として、アクティビティやグランピング施設、宿泊施設などのコンテンツは充実してきており、一定の申込も得られている。しかしながら、体験・交流プログラムづくりの観点で言えばまだKPIとしては達成できている状況とは言えないため、今後取り組んでいく。	他市町の事例などを参考に、寄附者の方に、朝来市を訪れていただくだけでなく、返礼品提供事業者や朝来市民の方、行政職員と交流いただけるような機会を創出し、まちや特産品の魅力をより深く体感いただけるような取組を研究する。

第2期朝来市創生総合戦略アクションプラン推進状況

基本目標 1 自分らしく生き生きと活躍する「ひと」づくり

◆ASAGOiNGな仲間づくり

◎結婚を希望する人の出会いの機会の創出

1 希望に応じた婚活を支援する

■目標に向けたアクション体系

1 結婚を希望する人が出会う機会をつくる └ ①婚活イベントなど結婚を希望する人の出会いの場づくり 2 結婚を希望する人をつなげる仕組みを充実させる └ ②婚活事業の実施主体間の情報共有 └ ③婚活イベントや支援の仕組みなどの広報の充実

■取組状況と今後の予定

課名	令和5年度までの取組状況	KPIの状況を踏まえた検証	目標達成に向けての取組・改善内容
市民協働課	JR利用やまち歩きを組み合わせ、楽しみながら参加できるイベントを実施した。 市の婚活担当と社会福祉協議会の結婚相談員との情報共有会議を、毎年複数回実施している。 市主催の婚活イベントに結婚相談員に参加いただき、参加者からの相談を受けたり、結婚相談所登録のPRを行った。 社会福祉協議会主催の婚活イベントに助成した。 イベント前などに自身のレベルアップ、または婚活等に役立つ内容のセミナーを開催した。	婚姻数については全国的に減少傾向であり、本市においてもコロナ禍以降の減少傾向が続いている。 婚活イベント実施回数については、山東支所実施の事業や補助事業が予定どおり実施されており、回数は目標達成されている。	イベント広報について、フリーペーパー掲載のほかLINE配信などSNS利用による広報を充実させる。 婚活イベント実施に興味がある団体向けに、助成事業の利活用について説明の機会を設ける。 社会福祉協議会結婚相談員等とも連携を図り、イベント後のフォローの充実を図る。 令和6年度は100人規模の大規模婚活イベントを開催する。

第2期朝来市創生総合戦略アクションプラン推進状況

基本目標1 自分らしく生き生きと活躍する「ひと」づくり

◆ASAGOiNGな仲間づくり

◎結婚を希望する人の出会いの機会の創出

2 自然な出会い、交流の機会をつくる

■目標に向けたアクション体系

1 趣味やスポーツのつながりから出会う機会をつくる L ④趣味・テーマごとの対話の場づくり L ⑤レクリエーションスポーツ大会の開催 2 仕事のつながりから出会う機会をつくる L ⑥職場間交流や異業種交流などの交流の場づくり

■取組状況と今後の予定

課名	令和5年度までの取組状況	KPIの状況を踏まえた検証	目標達成に向けての取組・改善内容
市民協働課	JR利用やまち歩きを組み合わせ、楽しみながら参加できるイベントを実施した。 婚活イベント実施の際に、婚活事業に理解のある市内企業にチラシを送付し、従業員への周知を依頼した。 出会いの場イベント実施場所についても、市内施設等を利用し、気軽に参加できるように努めた。	婚姻数については全国的に減少傾向であり、本市においてもコロナ禍以降の減少傾向が続いている。 婚活イベント実施回数については、山東支所実施の事業や補助事業が予定どおり実施されており、回数は目標達成されている。	趣味やスポーツを通じた出会い・交流の場の実施・広報について、生涯学習推進員、スポーツ推進員等に説明し、連携する。 出会いの場イベント実施に興味がある企業向けに、助成事業の利活用について説明の機会を設ける。 令和6年度は100人規模の大規模婚活イベントを開催する。

第2期朝来市創生総合戦略アクションプラン推進状況

基本目標1 自分らしく生き生きと活躍する「ひと」づくり

◆ASAGOiNGな仲間づくり

◎移住者や在住外国人などの地域の受入れ体制の充実

1 移住前の地域の受入れ体制の充実を図る

■目標に向けたアクション体系

1 地域情報を把握する

- └ ①区・地域自治協議会等の組織や行事の把握
- └ ②暮らしに関する情報の把握
- └ ③地域の個人・団体・グループ等の活動の把握
- └ ④地域の個人・団体・グループ等の活動に参加する仕組みの把握

2 移住希望者等へ地域情報を発信する

- └ ⑤多様な媒体を活用した発信
- └ ⑥ターゲットやテーマを絞った発信

3 地域で移住推進・受け入れに対する機運を高める

- └ ⑦移住者等とマッチングするための地域ニーズの把握・共有
- └ ⑧在住外国人受入れの出前講座の開催

■取組状況と今後の予定

課名	令和5年度までの取組状況	KPIの状況を踏まえた検証	目標達成に向けての取組・改善内容
市民協働課	移住希望者や体験住宅入居希望者と、区長始め地域住民との事前面談を実施している。 自治協議会の掲示板に空き家バンク物件情報を掲示いただいたほか、地域において空き家所有者からの相談を受けた場合、市役所に繋いでいただいている。 地域おこし協力隊の受け入れについて、受け入れ希望の自治協議会を巡る事前体験会を実施し、プレゼン方式での採用とし	先輩移住者や移住サポーターと連携し、移住者交流会を開催することができた。 空き家バンク物件や体験住宅の入居前に自治会面談を行うことで、移住後のミスマッチの事前防止に資することができている。	希望する地域自治協議会単位で、おためし協力隊の受け入れを実施する。 朝来市HP及び公式LINEでの新たな手法での活用により、移住相談や体験会参加申し込みのオンライン化、また移住に興味のある方に特化したLINE配信を新たに実施する。
人権推進課	在住外国人受け入れをはじめ、多文化共生社会をテーマにした講座を市の出前講座として登録（募集）し、申出により出前講座を実施した（1回）。	在住外国人の増加に伴い、日本語教室で学習などを通じて交流が深まり、外国人のニーズも多様化していることが分かった。 多文化共生に関する出前講座は、PTAや民生委員など、教育、福祉分野からの団体グループからの希望が多い傾向にある。	出前講座をはじめ、あらゆる機会を利用して、多文化共生について考えたり、体験したりできる回数を増やす。

第2期朝来市創生総合戦略アクションプラン推進状況

基本目標1 自分らしく生き生きと活躍する「ひと」づくり

◆ASAGOiNGな仲間づくり

◎移住者や在住外国人などの地域の受入れ体制の充実

2 移住後の地域の受入れ体制の充実を図る

■目標に向けたアクション体系

1 移住者や在住外国人と地域住民がつながる機会をつくる

- └ ⑨移住者や在住外国人の情報の把握・地域住民相互の共有
- └ ⑩移住者や在住外国人と地域住民との対話の場づくり
- └ ⑪移住者や在住外国人と地域住民との交流の場づくり
- └ ⑫移住者や在住外国人と地域をつなぐコーディネーターの育成
- └ ⑬移住者や在住外国人の困りごとなどが集まり解決するシンクタンクの役割を地域でつくる

■取組状況と今後の予定

課名	令和5年度までの取組状況	KPIの状況を踏まえた検証	目標達成に向けての取組・改善内容
市民協働課	移住希望者や体験住宅入居希望者と、区長始め地域住民との事前面談を実施している。 自治協議会の掲示板に空き家バンク物件情報を掲示いただいたほか、地域において空き家所有者からの相談を受けた場合、市役所に繋いでいただいている。 地域おこし協力隊の受け入れについて、受け入れ希望の自治協議会を巡る事前体験会を実施し、プレゼン方式での採用としている。	先輩移住者や移住サポーターと連携し、移住者交流会を開催することができた。 空き家バンク物件や体験住宅の入居前に自治会面談を行うことで、移住後のミスマッチの事前防止に資することができている。	希望する地域自治協議会単位で、おためし協力隊の受け入れを実施する。 朝来市HP及び公式LINEでの新たな手法での活用により、移住相談や体験会参加申し込みのオンライン化、また移住に興味のある方に特化したLINE配信を新たに実施する。
人権推進課	在住外国人を対象とした日本語教室を開催することにより、生活支援と市民（支援ボランティア）との交流を続けている。	住みたいまちとして外国人に選んでもらえるまちづくりのために、交流協会や日本語教室ボランティア支援者、事業者と連携し、日本語教師や多文化共生コーディネーターなどの人材の育成と確保が必要である。	在住外国人のニーズを把握しNPOなどを含め市民や事業所など地域社会で共有し、互いに支援できる仕組みにつなげる。

第2期朝来市創生総合戦略アクションプラン推進状況

基本目標1 自分らしく生き生きと活躍する「ひと」づくり

◆一人一人の行動につなげる情報発信の充実

◎一人一人の行動につなげる情報発信の充実

1 多様な媒体による情報発信を充実する

■目標に向けたアクション体系

1 欲しい情報がすぐにキャッチできるように発信する

- Ｌ ①検索しやすい情報の発信
- Ｌ ②ウェブサイト閲覧者の情報を把握・分析し発信方法を改善
- Ｌ ③誰にでも分かりやすい広報媒体の作成

2 届けたい人に届くように情報を発信する

- Ｌ ④年齢に応じた多様な情報発信
- Ｌ ⑤多言語対応した情報発信
- Ｌ ⑥ターゲットやテーマを絞ってSNSなどを活用した情報発信

■取組状況と今後の予定

課名	令和5年度までの取組状況	KPIの状況を踏まえた検証	目標達成に向けての取組・改善内容
秘書広報課	広報誌の書体等を変更し読みやすくしたほか、掲載計画に基づき特集記事の作成に取り組んだ。 市ホームページについては、情報を検索しやすくするため、ホームページをリニューアルした。 市公式LINEにセグメント配信サービス機能を付加し、欲しい人に欲しい情報を届けるサービ	実施してきた取り組みがKPIに反映していないのは、情報インフラの充実という要素が移住マインドと関係性が深いと考える人が少ないことが考えられる。	情報インフラが充実している「まち」であることを対外的に示していただけるよう引き続きニーズに応じた情報の発信に努める。

第2期朝来市創生総合戦略アクションプラン推進状況

基本目標1 自分らしく生き生きと活躍する「ひと」づくり

◆一人一人の行動につなげる情報発信の充実

◎一人一人の行動につなげる情報発信の充実

2 市民自らが結果だけでなく現在進行形の情報を発信する

■目標に向けたアクション体系

1 コミュニケーションにより情報を発信する

- Ｌ ⑦多様な人との対話の場づくり
- Ｌ ⑧テーマごとの集いの場・対話の場づくり
- Ｌ ⑨人の動き・考えなどを伝える

2 多様な媒体により情報を発信する

- Ｌ ⑩情報発信手法を学ぶ講座開催
- Ｌ ⑪情報リテラシーを学ぶ機会づくり
- Ｌ ⑫多様な主体が現在進行形の動きを発信

■取組状況と今後の予定

課名	令和5年度までの取組状況	KPIの状況を踏まえた検証	目標達成に向けての取組・改善内容
秘書広報課	コロナ禍により実施を見合わせていた広聴事業を開催し、対話の場を作るとともに、広報誌において、多様な活動を行う人にスポット当て人の動き・考えを市民に伝えた。	目標値には達していないが、微増・現状維持の傾向にあるのは、多様な活動を行う人を紹介する機会として、地域の方との対話の場が増えたことや広報誌により継続的に「人と活動」を取り上げたことに影響を受けた人がいることが考えられる。	引き続きふれあい市長室やふれあいトーク等市民との対話の機会に多様な活動を行う人の動き・考えを紹介するとともに、広報誌による周知を行う。
総合政策課	市民ライター講座を年2回ずつ開催し、発信力を高める学びの場を提供するとともに、市民が主体的に発信する動機付けを行った。	SNSを活用し市民自らがまちの魅力やまちの動きの発信に少しずつつながっているものの、新たな活動を促進するまでは至っていない。そのためにも、SNSだけでなく、Face to Faceによる情報発信も織り交ぜながら進めていく必要がある。	市民自らがまちの魅力やまちの動きを発信していくことの楽しさを感じられる仕掛けづくりを行い、市民の主体的な発信を促進する。また、SNS等を活用した一方的な情報発信だけでなく、発信する人・発信される人・情報を受ける人などが出会う場づくりを行うことで、情報発信とアクションの相乗効果を高めていく。

市民協働課	SNSを活用した地域の情報発信手法について研修を開催す自治協議会增加している。また、地域おこし協力隊の活動を紹介する動画を配信している。さらに、地域自治協議会の会議をオンラインで開催する等の工夫に努めてきた。	現時点で目標値に達成しているので引き続き事業を展開していく。	現時点で目標値に達成しているので引き続き事業を展開していく。
-------	--	--------------------------------	--------------------------------

第2期朝来市創生総合戦略アクションプラン推進状況

基本目標2 魅力ある多様な「しごと」づくり

◆内発的な経済成長

◎市内企業で働く人材の確保

1 市内企業の情報発信を行う

■目標に向けたアクション体系

1 多様な手法により市内企業の情報を発信する

- Ｌ ①広報紙やウェブサイトを活用した市民や親世代向けの情報発信
- Ｌ ②SNSなどを活用した高校生・大学生・移住者向けの情報発信
- Ｌ ③大学生・移住者向けの企業説明会などの対面型の情報発信

2 市内企業の魅力を伝える場をつくる

- Ｌ ④市民や親世代へ伝える場づくり
- Ｌ ⑤小・中学生へ伝える場づくり（トライやるウィークなど）
- Ｌ ⑥高校生へ伝える場づくり（対話の場、しごとゼミなど）
- Ｌ ⑦大学生へ伝える場づくり（対話の場など）
- Ｌ ⑧移住者やUターン者などへ伝える場づくり（対話の場など）

3 企業と就職希望者とのマッチングを推進する

- Ｌ ⑨就職希望者への伴走型支援（ジョブサポあさごなど）

■取組状況と今後の予定

課名	令和5年度までの取組状況	KPIの状況を踏まえた検証	目標達成に向けての取組・改善内容
経済振興課	市内高等学校においては、キャリア教育の一環として、しごとゼミに対する期待が高く、カリキュラムとして定着している。	コロナ禍以降、概ね25事業所程度の協力で、仕事ゼミやを実施しているが、生徒のキャリア教育と市内事業所の人材確保に資する規模として、現状の事業は、適正であると考えている。	生徒数が減少していく中、学校と企業、双方に資する事業として、適切な規模感をもって実施していく。
市民協働課	移住イベント等の際に「ジョブサポあさご」や企業説明会、新規就農支援制度の説明なども行い、希望内容により各担当課に繋いでいる。	移住希望者等への情報発信については、各種機会を捉えて行っており、関係課との連携により円滑な相談対応体制が設けられている。	公式LINEのセグメント配信などでも、仕事関係情報を発信していく。 移住希望者の朝来市来訪時に会社訪問などを組み合わせられるよう、各担当課と連携を図る。
総合政策課	市内高校でキャリアトークカフェを開催し、魅力ある市内企業や働き方を知る機会づくりを行っており、実際に、キャリアトークカフェをきっかけに、インターンシップへの参加、就職へとつながりはじている。	キャリアトークカフェ等をきっかけに市内企業への就職へつながりはじめており、本事業の継続は必要である。しかしながら、市外の高校へ通う高校生へ市内企業の魅力を伝える対話の場がない。	朝来市から八鹿高校へ通う生徒数が多いことを踏まえ、養父市と連携し、八鹿高校でキャリアトークカフェが開催できるよう進める。

学校教育課	トライやる・ウィーク推進事業により、職場体験、勤労生産活動をととして、地域に学び、感謝の心を育むことができた。	トライやる・ウィーク推進事業において、学校の教職員はもとより、保護者・地域住民等多くの大人の関わりにより、事業後の感想に多くの生徒が「地域への感謝」に関する記述をしていた。	引き続き、兵庫型「体験教育」として継続実施し、社会と関わる活動に取り組んでいく。また、特色ある学校づくり事業（あさごドリームアップ事業）を活用しながらキャリア教育の一環として実施していく。
--------------	--	---	---

第2期朝来市創生総合戦略アクションプラン推進状況

基本目標2 魅力ある多様な「しごと」づくり

◆内発的な経済成長

◎市内企業で働く人材の確保

2 生き方や朝来市で働き・暮らすイメージを持つ

■目標に向けたアクション体系

1 市内で活躍する多様な人との出会いの場をつくる

└ ⑩学校での出会いの場づくり（キャリアトークカフェなど）

2 市内企業の仕事の魅力を体験する場をつくる

└ ⑪中学生が体験する場づくり（トライやるウィークなど）

└ ⑫高校生・大学生等が体験する場づくり（インターンシップなど）

■取組状況と今後の予定

課名	令和5年度までの取組状況	KPIの状況を踏まえた検証	目標達成に向けての取組・改善内容
経済振興課	市内事業所においては、特に若手従業員の確保に困難を来しており、本事業に対する期待感是非常に強い。事業所の前向きな取組みにより、しごとゼミの事業効果の一層の向上を見込むことができ、来年度以降も、事業所や高等学校の意向も踏まえながら、効果的な事業実施に繋げたい。	自然減と社会減に伴う生産年齢人口の減少は、市内事業所の人手不足に拍車をかけており、人材の確保は官民双方の喫緊の課題である。市内の魅力的な事業所の気づきということを踏まえると、現状の事業規模が適正であり、今後も学校、生徒と企業の調整をしつつ、丁寧な事業実施を図りたい。	多くの市内事業所が人手不足の状況にある中、特定の業種、事業所に偏ることなく、生徒のキャリア教育と、市内事業所の魅力発信に努めたい。
総合政策課	高校生のキャリアトークカフェやしごとゼミを経て、具体的に働くイメージを得るため、実践的なインターンシップの受入を行った。また、芸術文化観光専門職大学の授業の一つとして市のまちづくりの業務を体験する実習を受け入れている。	和田山高校や連携している大学などが実施するインターンシップに応じた受入に留まっており、インターンシップを希望する高校生や大学生が所属する学校に関係なく体験できる機会がない。	高校生や大学生などインターンシップを希望すれば、誰もがインターンシップを体験できる機会を検討する。

学校教育課	トライやる・ウィーク推進事業により、職場体験、勤労生産活動を通して、地域に学び、感謝の心を育むことができた。	トライやる・ウィーク推進事業において、学校の教職員はもとより、保護者・地域住民等多くの大人の関わりにより、事業後の感想に多くの生徒が「地域への感謝」に関する記述をしていた。	引き続き、兵庫型「体験教育」として継続実施し、社会と関わる活動に取り組んでいく。また、特色ある学校づくり事業（あさごドリームアップ事業）を活用しながらキャリア教育の一環として実施していく。
--------------	---	---	---

第2期朝来市創生総合戦略アクションプラン推進状況

基本目標2 魅力ある多様な「しごと」づくり

◆内発的な経済成長

◎市内企業で働く人材の確保

3 市内企業への就職を推進する取組を支援する

■目標に向けたアクション体系

1 就職を促す取組を行う企業を支援する

└ ⑬若手社員の奨学金返還を支援する市内企業への財政支援

■取組状況と今後の予定

課名	令和5年度までの取組状況	KPIの状況を踏まえた検証	目標達成に向けての取組・改善内容
経済振興課	若手従業員の確保に苦慮する市内事業所において、負担軽減制度を設けることが、採用時の福利厚生面におけるPRや、離職率の低下に繋がることを継続的に周知する。	市内事業所における新卒就業者数は目標値を若干下回っている状況にある。都市部における旺盛な採用活動により、地方の事業所は人材確保に困難をきたしている。	当該事業を実施する事業者を広く周知するため、就活サポートブックや、二十歳の集いでのPR、SNS、商工会Lineでの発信に努めた。今後も特にZ世代への訴求を強化するため、SNSを中心としたツールに注力するとともに、令和6年度から、県制度に準じて、対象年齢、勤続年数の緩和を行ったことから、市内企業の採用ツールとしての活用をより一層呼びかけていく。

第2期朝来市創生総合戦略アクションプラン推進状況

基本目標2 魅力ある多様な「しごと」づくり

◆内発的な経済成長

◎市内企業等の稼ぐ力の向上

1 企業の経営支援を行う

■目標に向けたアクション体系

1 後継者育成・事業承継の支援を行う

- └ ①商工会や金融機関と連携した支援の展開
- └ ②後継者育成・事業承継マインドを醸成する対話・学びの場づくり

2 設備拡大の支援を行う

- └ ③情報収集・情報提供等による伴走型支援
- └ ④設備拡大のための財政支援
- └ ⑤市内企業の規模拡張・企業誘致に向けた整備検討等

3 新分野進出の支援を行う

- └ ⑥情報収集・情報提供等による伴走型支援
- └ ⑦新分野進出のための財政支援

■取組状況と今後の予定

課名	令和5年度までの取組状況	KPIの状況を踏まえた検証	目標達成に向けての取組・改善内容
経済振興課	あさご元気産業創生センターにおいて、市内企業からの様々な相談の対応や補助を受けるために必要となる計画の策定の支援を行いつつ、創業希望者に対して起業等の支援を行った。	コロナ禍においてコロナ関連支援金の相談が多かったが、国の支援金の終了に伴い現在は起業等に関する相談が増えてきている。	今後も市内企業からの相談対応や計画策定支援を行いつつ、起業等の支援を行う。

第2期朝来市創生総合戦略アクションプラン推進状況

基本目標2 魅力ある多様な「しごと」づくり

◆内発的な経済成長

- ◎市内企業等の稼ぐ力の向上
- 2 起業しやすい環境をつくる

■目標に向けたアクション体系

- 1 起業マインドを育む機会をつくる
 - └ ⑧起業の魅力の情報発信
 - └ ⑨起業者との対話・交流の場づくり
- 2 起業を支援する
 - └ ⑩起業セミナーの開催など学びの場づくり
 - └ ⑪起業前から起業後まで切れ目ない伴走型支援
 - └ ⑫起業を応援する財政支援
 - └ ⑬コワーキングスペースやインキュベーション施設など活動拠点の提供

■取組状況と今後の予定

課名	令和5年度までの取組状況	KPIの状況を踏まえた検証	目標達成に向けての取組・改善内容
経済振興課	にぎわい創出支援事業等、各種補助事業や元気産業創生センター、市商工会との連携により、多様な事業者の起業に努めた。	コロナ禍にあって、特に飲食、宿泊等サービス業が深刻な影響を及ぼしたことから、創業者数は目標を下回る件数にとどまった。今後も継続して支援を行い創業件数の回復に努めたい。	各種補助事業や相談支援機関との連携の下、起業後も継続する伴走型により適切な支援に努めたい。
市民協働課	起業人財交流館KOUBAを運営しており、R4年度については前入居者が独立退去したあと、年末から年度末にかけて3組3人の入居があった。 KOUBAを会場に、芸術文化専門職大学との連携事業を実施し、若者や移住起業希望者や地域住民との対話・交流イベントを実施した。	KOUBAにおける専門職大学との連携事業により、地域に開かれた施設として認知度の向上が図られた。	KOUBAを会場に、あさご元気産業創生センターの起業セミナーを行い、KOUBAの広報及び起業者との交流を図る。 KOUBAと専門職大学との連携事業に竹田地域とも連携し、地域住民や観光客にも地方での起業の魅力を発信する。

第2期朝来市創生総合戦略アクションプラン推進状況

基本目標2 魅力ある多様な「しごと」づくり

◆内発的な経済成長

◎誰もが安心して希望に応じたやりがいのある働き方の実現

1 誰もが安心して働くことができる環境をつくる

■目標に向けたアクション体系

1 若者が働きやすい環境をつくる

- └ ①労働時間など若者の働く価値観に応じた就業環境づくり
- └ ②働きながら資格や技術などが習得できる仕組みづくり

2 女性が働きやすい環境をつくる

- └ ③子育てしながらでも働きやすい企業の就業環境づくり
- └ ④女性が働きやすくするための市内企業の就業環境の発信
- └ ⑤市内の保育環境の充実

3 高齢者が働きやすい環境をつくる

- └ ⑥再就職に向けた支援
- └ ⑦シルバー人材センターと連携した高齢者の就業支援

4 外国人が働きやすい環境をつくる

- └ ⑧起業や地域と連携した生活支援を含めた受入れ体制づくり

■取組状況と今後の予定

課名	令和5年度までの取組状況	KPIの状況を踏まえた検証	目標達成に向けての取組・改善内容
経済振興課	市内事業所における人手不足感は強く、子育て中の女性と短時間、少日数で勤務できる市内事業所とのマッチングイベントや、働きやすい職場づくりのためのセミナーを継続して実施してきた。令和5年度は、デジタルで仕事ができるスキルを身につけるための講座「朝来クリエイタースクール」を開催、これら取組み等により本市における女性の就業率は県や全国の平均に比べ高く、さらに上昇傾向にある。	各種取組みや、こども園整備等による子育てしやすい環境により、市内の女性就業者比率は上昇傾向にある。更なる潜在労働力の掘り起こしのため、働く場だけでない多方面からのアプローチを継続して実施する必要がある。	今後、デジタル人材のニーズがますます高まることを踏まえ、デジタル人材の育成支援事業や、㈱リクルートとの連携により、市内事業所の求人情報を始めとするデジタル化により一層取り組む。

こども園課	公立こども園7園、私立保育所2園、私立こども園4園、公立学童クラブ9施設、私立学童クラブ3施設を開設している。私立やなせ学童はR3から新規開設。また、R2年11月から山東生涯学習センター3階を、R3から朝来生涯学習センター1階を日曜日に開放している。また、R5年2月からファミリー・サポート・センター事業を新たに実施している。	公立・私立こども園運営・私立保育所運営・公立・私立学童クラブ運営・ファミリー・サポート・センター事業は、女性就業者の増の受け皿となっている。	引き続き、同様の事業を実施する。また、運営に必要となる人材の確保に努める。
学校教育課	公立学童クラブ9施設、私立学童クラブ3施設を開設している。私立やなせ学童はR3から新規開設。	公立・私立学童クラブ運営は、女性就業者の増の受け皿となっている。	引き続き、同様の事業を実施する。また、運営に必要となる人材の確保に努める。
高年福祉課	シルバー人材センターへの補助を実施したほか、活動内容を掲載した広報誌の全戸配布を支援し、高齢者の就業機会等について広報を行った。	広報誌の全戸配付を支援したが、会員数及び受注件数ともに減少した。	元気な高齢者が地域社会の課題解決の担い手となって活躍するシルバー事業を支援する観点から、引き続き、シルバー人材センターへの補助を実施するほか、広報誌等の全戸配付を支援するなど、会員数及び就業機会の拡大に協力する。

第2期朝来市創生総合戦略アクションプラン推進状況

基本目標2 魅力ある多様な「しごと」づくり

◆内発的な経済成長

◎誰もが安心して希望に応じたやりがいのある働き方の実現

2 多様な働き方を推進する

■目標に向けたアクション体系

1 企業の意識改革と多様な働き方ができる仕組みをつくる

- └ ⑨短時間労働や副業（複業）などの仕組みづくりを支援
- └ ⑩短時間労働や副業（複業）希望者と企業とのマッチング

2 市民の意識改革を行う

- └ ⑪多様な生き方・働き方があることを伝える情報発信
- └ ⑫多様な生き方・働き方の魅力を伝える場づくり

■取組状況と今後の予定

課名	令和5年度までの取組状況	KPIの状況を踏まえた検証	目標達成に向けての取組・改善内容
経済振興課	子育て中の女性と短時間、少日数での勤務が可能な企業とのマッチングイベント、「お仕事大相談会」や、デジタルで仕事ができるスキルを身につけるための講座「朝来クリエイタースクール」を実施した。	マッチングイベント「お仕事大相談会」や「朝来クリエイタースクール」は、市内事業者、働きたい女性の関心も高く、一定の事業効果をあげている。	市内事業所、働きたい女性ともに、マッチングイベントへのニーズは高いことから、継続して実施するとともに、多様な生き方や働き方を提案する事業として、女性デジタル人材の育成支援事業「朝来クリエイタースクール」を実施する。

第2期朝来市創生総合戦略アクションプラン推進状況

基本目標2 魅力ある多様な「しごと」づくり

◆交流人口拡大による経済循環活動の促進

◎朝来市の強みを生かした観光誘客の推進

1 観光資源を発掘する

■目標に向けたアクション体系

1 体験型観光を推進する

- └ ①歴史体験プログラムの開発・実施
- └ ②自然体験プログラムの開発・実施
- └ ③農業体験プログラムの開発・実施

■取組状況と今後の予定

課名	令和5年度までの取組状況	KPIの状況を踏まえた検証	目標達成に向けての取組・改善内容
観光交流課	市内にある観光体験素材のコンテンツを掘り起こし、旅行エージェントにPRするための体験型素材集（掲載プログラム数31）に加え、新たに関西万博を契機としたひょうごフィールドパビリオン認定プログラムとして、2件が認定された。	コロナ禍中は体験型観光の需要もなく、新たな観光事業の開発等は停滞していたため、体験プログラムの掘り起こしが数件しか進んでおらず、目標値の達成が難しい状況である。	新たな主体と連携を図り、冬季の体験プログラムの検討など、新しいコンテンツの開発を進める。

第2期朝来市創生総合戦略アクションプラン推進状況

基本目標2 魅力ある多様な「しごと」づくり

◆交流人口拡大による経済循環活動の促進

◎朝来市の強みを生かした観光誘客の推進

2 観光地としての魅力を発信する

■目標に向けたアクション体系

1 多様な手段により情報を発信する

- └ ④ウェブサイト・SNSなどを活用した観光資源の発信
- └ ⑤観光キャンペーンを活用した情報発信
- └ ⑥テレビ等のメディアを活用した情報発信
- └ ⑦マーケティングを意識した観光プロモーションの展開
- └ ⑧映画・ドラマのロケ地誘致活動

2 複合的な情報発信を展開する

- └ ⑨観光資源をつなぐストーリーを活用した情報発信
- └ ⑩異分野を組み合わせた情報発信（食×歴史など）

■取組状況と今後の予定

課名	令和5年度までの取組状況	KPIの状況を踏まえた検証	目標達成に向けての取組・改善内容
観光交流課	ウェブサイト・SNS、テレビ等のロケ地を誘致・受入をし、二次波及効果によるPRにつなげた。R5年度は特にSNSでの情報発信に力を入れたほか、JR姫路駅での観光キャンペーンなども実施した。	各種メディアでの情報発信の回数は、多様な手段を活用した結果、目標値に近づいている。	引き続き、ウェブサイト・SNSをはじめ、広域団体と連携した多言語サイトの活用など、の多様な手段を活用して情報発信を行う。また、積極的に映画等のロケ地を誘致・受入をすることで、市のPRに繋げる。

第2期朝来市創生総合戦略アクションプラン推進状況

基本目標2 魅力ある多様な「しごと」づくり

◆交流人口拡大による経済循環活動の促進

◎観光客一人当たりの観光消費額の拡大

1 周遊型観光を推進する

■目標に向けたアクション体系

1 多様なストーリーで地域資源をつなげる

- └ ①モデルコースの設定、整備、情報発信

2 二次交通の充実を図る

- └ ②天空バス・タクシーの活用推進
- └ ③サイクリングの活用推進

■取組状況と今後の予定

課名	令和5年度までの取組状況	KPIの状況を踏まえた検証	目標達成に向けての取組・改善内容
観光交流課	各種スタンプラリーを実施し、市内の観光スポットの周遊を促した。 サイクリング拠点を活用し、サイクリングツアーやイベントを実施し、サイクリング観光の推進を行った。 また、広域連携により、新たに日本遺産構成文化財を巡る周遊コース設定の検討を始めた。	着地型観光商品の販売促進など、観光消費額の増加に繋がる取組を行う必要がある。	引き続き、市内を周遊し観光消費を促すような商品の造成及び販売、イベントの実施などを行う。 また、検討中の新たな周遊コース等の設定、広域連携を活用した情報発信を図る。

第2期朝来市創生総合戦略アクションプラン推進状況

基本目標2 魅力ある多様な「しごと」づくり

◆交流人口拡大による経済循環活動の促進

◎観光客一人当たりの観光消費額の拡大

2 滞在型観光を推進する

■目標に向けたアクション体系

1 宿泊地としての魅力を創出する

- └ ④ライトアップ等による夜の魅力や早朝の魅力の創出
- └ ⑤民泊の推進支援

2 食の充実を図る

- └ ⑥地元食材にストーリーを付すことによる付加価値の向上
- └ ⑦但馬牛・岩津ねぎなど朝来市産の食材を生かしたメニュー拡大
- └ ⑧地酒の活用

■取組状況と今後の予定

課名	令和5年度までの取組状況	KPIの状況を踏まえた検証	目標達成に向けての取組・改善内容
観光交流課	山東町矢名瀬町の2軒の酒蔵の観光コンテンツ化に向けた検討を始めた。 市内のグルメをPRするショート動画の配信を行った。 生野銀山及び神子畑選鉱場跡での夜のイベントを実施し、新たな誘客につなげた。	観光消費額の増加に向けて、宿泊を促す取組を行う必要がある。	引き続き、市内の滞在時間を増加させるために、夜間や冬季の魅力的なコンテンツ開発や宿泊を伴うツアーなど、朝来市特有の地域資源を活用した取組を実施する。

第2期朝来市創生総合戦略アクションプラン推進状況

基本目標2 魅力ある多様な「しごと」づくり

◆交流人口拡大による経済循環活動の促進

◎観光客一人当たりの観光消費額の拡大

3 観光受け入れ体制を強化する

■目標に向けたアクション体系

1 誰もが安心して訪れることができる環境をつくる

└ ⑨観光ユニバーサルデザインに配慮した取組

2 観光ガイドやおもてなし人材を充実・強化する

└ ⑩高校との連携など若い人材へのアプローチ

└ ⑪観光ガイド人材の確保・育成に向けた取組

└ ⑫市民のおもてなし力向上に向けた取組

■取組状況と今後の予定

課名	令和5年度までの取組状況	KPIの状況を踏まえた検証	目標達成に向けての取組・改善内容
観光交流課	市内の観光ガイドを中心に、おもてなし講座や研修を実施し、新たな人材の確保や育成に向けた取り組みを行い、観光客を受け入れる体制の強化を図った。	高齢化等による観光ガイド人材の減少やガイド団体の休止があり、ガイド登録者数が減少している。	引き続き、受入体制の強化や担い手の確保のため、新たな観光ガイド養成講座を実施する。 また、兵庫県のユニバーサルツーリズムを推進している有識者とも連携しながら、新たにユニバーサルツーリズムの導入の検討を行う。

第2期朝来市創生総合戦略アクションプラン推進状況

基本目標2 魅力ある多様な「しごと」づくり

◆交流人口拡大による経済循環活動の促進

◎観光客一人当たりの観光消費額の拡大

4 観光推進体制を強化する

■目標に向けたアクション体系

1 観光推進組織を充実・強化する

- └ ⑬観光協会の体制の強化
- └ ⑭観光関連団体相互、農林業や商工業等との連携の強化

■取組状況と今後の予定

課名	令和5年度までの取組状況	KPIの状況を踏まえた検証	目標達成に向けての取組・改善内容
観光交流課	令和2年度に朝来市観光協会を設立し、以降職員体制を強化し、様々な業務（観光案内所管理運営、イベント実施、キャンペーン事業等）を委託した。令和5年度には一般社団法人となった。	第2次観光基本計画のロードマップに基づき推進組織の強化を行い、推進体制を整えた。	令和6年度から第3次観光基本計画期間となり、法人化された朝来市観光協会は、観光地経営を実践する組織として、市や市内法人・団体等と連携し、観光商品の開発など様々な事業を進めていく。

第2期朝来市創生総合戦略アクションプラン推進状況

基本目標2 魅力ある多様な「しごと」づくり

◆交流人口拡大による経済循環活動の促進

◎インバウンド観光の推進

- 1 訪日外国人旅行者の受け入れ体制づくりを行う

■目標に向けたアクション体系

- 1 スムーズに受け入れるための環境を整備する
 - Ｌ ①多言語に対応した看板・パンフレットの作成
 - Ｌ ②多言語対応人材の発掘・活用
- 2 消費活動を促進する環境を整備する
 - Ｌ ③キャッシュレス化の推進

■取組状況と今後の予定

課名	令和5年度までの取組状況	KPIの状況を踏まえた検証	目標達成に向けての取組・改善内容
観光交流課	台湾での大商談会への参加、多言語サイトの活用、観光パンフレットの現地送付により、インバウンド向けのPRを展開した。また、竹田城跡等において、PayPayを導入し、キャッシュレスに対応した施設整備を行った。	R2年以降、新型コロナウイルスの影響によりインバウンドの来訪者数は激減したため、目標達成には至っていないが、R4年度及びR5年度はそれぞれ対前年比400%以上伸びており、H29年度時点の数値にまで回復している。	2025年大阪・関西万博を契機とし、関係機関と連携し、ひょうごフィールドパビリオンの実施や多言語での情報発信サイトの活用など、市へのインバウンド誘客を積極的に行う。

第2期朝来市創生総合戦略アクションプラン推進状況

基本目標2 魅力ある多様な「しごと」づくり

◆儲ける農林畜産業への転換

◎農林畜産業の担い手の確保・育成

1 生業としての農林畜産業の担い手を確保・育成する

■目標に向けたアクション体系

- 1 認定農業者など農林畜産業を生業とする人を育成する
 - └ ①経営能力向上に向けた支援
 - └ ②農林畜産業者間のネットワークづくり
- 2 新規就農者など新たに農林畜産業を生業にしようとする人を確保・育成する
 - └ ③就農希望者向けイベントの出展など農林畜産業の魅力の発信
 - └ ④農家とのマッチング等の研修・相談など自立支援体制の充実
 - └ ⑤子どもの頃から農林畜産体験など学びの機会の充実

■取組状況と今後の予定

課名	令和5年度までの取組状況	KPIの状況を踏まえた検証	目標達成に向けての取組・改善内容
農林振興課	コロナ渦で中止となっていた新規就農希望者向けフェストが再開したため参加し、新規就農希望者研修制度を周知し、新たな担い手の確保に務めた。 また、Uターン、地元就農希望者向けに新たな研修制度を制定した。	研修を修了（早期修了者を含む）した者は、市内での新規就農者として営農を行っている。その大半の者が認定新規就農者として認定を受けており一定の効果があるが、目標人数には届かなかった。	新規就農希望者向けフェストやセミナーに継続して参加するとともに、研修制度を充実させ、更なる担い手の確保に努める。

第2期朝来市創生総合戦略アクションプラン推進状況

基本目標2 魅力ある多様な「しごと」づくり

◆儲ける農林畜産業への転換

◎農林畜産業の担い手の確保・育成

2 農林畜産業に多様な人が多様な関わり方をする

■目標に向けたアクション体系

1 多様な関わり方を創出する

- └ ⑥女性などが短時間労働等で農林畜産業に関わる仕組みづくり
- └ ⑦高齢者などが軽作業等で農林畜産業に関わる仕組みづくり
- └ ⑧副業（複業）などで農林畜産業に関わる仕組みづくり
- └ ⑨福祉と連携した農林畜産業の推進

2 新しい農業を支える仕組みをつくる

- └ ⑩経営規模拡大・安定に向けた法人化の推進
- └ ⑪CSA（地域支援型農業）導入に向けた取組の推進

■取組状況と今後の予定

課名	令和5年度までの取組状況	KPIの状況を踏まえた検証	目標達成に向けての取組・改善内容
農林振興課	女性農業研修生も女性農業者グループに参加し、地域農業への参画、農業機械の講習会、イベント出展など積極的に活動した。	農村部や農業コミュニティにおいては、トイレや衛生設備の整備が不十分な地域が多く存在しています。特に女性にとっては、これらの施設の不備は深刻な問題となっており、女性農業者が増加しない原因のひとつと考えています。	農業研修生の確保、就農相談、体験等を上手く活用し、女性農業者の確保に努める。 ほ場環境の整備に対する支援制度等が必要である。

第2期朝来市創生総合戦略アクションプラン推進状況

基本目標2 魅力ある多様な「しごと」づくり

◆儲ける農林畜産業への転換

◎農業所得向上に向けた取組の推進

1 農産物の販路を拡大する

■目標に向けたアクション体系

1 多様な販路を設ける

- L ①仲介事業者を通さない直販の強化
- L ②地産地消の取組の推進
- L ③海外への販路開拓

■取組状況と今後の予定

課名	令和5年度までの取組状況	KPIの状況を踏まえた検証	目標達成に向けての取組・改善内容
農林振興課	・市内農業者グループによる関西圏又は関東圏への販路を開拓し所得向上に繋げている。 ・新技術導入研究と販路開拓を目的に、「加工用馬鈴薯」の栽培に挑戦している。	販路確保において課題となる農産物量の確保が不安定である。加工用馬鈴薯の試験栽培1年目は、収量が少なく、品質も悪い状態である。	・効率的な集荷体制や更なる販路拡大のため、地域と協力した生産・流通体制を確立する必要がある。 ・加工用馬鈴薯については、試験栽培を継続し、専門家による講習会等を行い、収量及び品質の向上を図る。

第2期朝来市創生総合戦略アクションプラン推進状況

基本目標2 魅力ある多様な「しごと」づくり

◆儲ける農林畜産業への転換

◎農業所得向上に向けた取組の推進

2 農産物の高付加価値化を図る

■目標に向けたアクション体系

1 競争力のある商品を開発する

- └ ④高校・大学・企業との連携などによる商品開発

2 情報発信力を強化する

- └ ⑤農畜産物や生産者の魅力の発信

3 既存農産物の地域ブランド力を向上する

- └ ⑥高校・大学・企業との連携などによる地域ブランド力の向上
- └ ⑦有機JAS、GAP、HACCP認証取得支援

■取組状況と今後の予定

課名	令和5年度までの取組状況	KPIの状況を踏まえた検証	目標達成に向けての取組・改善内容
農林振興課	企業等との連携により、新特産物（加工用馬鈴薯）の試験栽培を実施。また有機農業の発展した考え方であるBLOF理論の講習会、実証等を実施し、農産物の高付加価値化を推進した。	加工用馬鈴薯を栽培する農業者が増えた。 収量及び品質の確保が課題である。 BLOF理論による有機栽培方法の認知が低い。	講習会等による栽培技術の取得と向上を図り、収量と品質向上を確保できるように支援を行う。 オーガニックビレッジ宣言を機に市内での認知を深め、有機栽培の拡大を図り、特産物の高付加価値化を目指す。

第2期朝来市創生総合戦略アクションプラン推進状況

基本目標2 魅力ある多様な「しごと」づくり

◆儲ける農林畜産業への転換

◎生産量拡大や作業負担軽減・低コスト化に向けた新たな農林畜産業の推進

1 生産量拡大や作業負担軽減のための設備・機械の導入拡大を推進する

■目標に向けたアクション体系

1 設備・機械導入の普及を推進する

- └ ①設備・機械導入による農作業環境の改善状況の周知
- └ ②設備・機械の導入支援

■取組状況と今後の予定

課名	令和5年度までの取組状況	KPIの状況を踏まえた検証	目標達成に向けての取組・改善内容
農林振興課	・農業経営スマート化促進事業や農業生産コスト低減緊急対策事業等を実施し、農業者に対する効果的な機械（設備）導入支援を行った。 ・認定新規就農者への機械導入支援を行った。	・機械のスマート化やコスト低減に資する機械の導入により、労働時間の縮減、省力化に寄与しているが、近年の物価高騰により、農業機械購入費、資材費も同様であるため、導入の見送り、延期するケースが増えている。	市内農産物の安定的及び効果的な生産を達成するため、今後も継続して事業を行う。

第2期朝来市創生総合戦略アクションプラン推進状況

基本目標2 魅力ある多様な「しごと」づくり

◆儲ける農林畜産業への転換

◎生産量拡大や作業負担軽減・低コスト化に向けた新たな農林畜産業の推進

2 新技術の導入検討を行う

■目標に向けたアクション体系

1 大学・企業など研究機関と連携した取組を推進する
L ③生産量拡大に向けた研究
L ④農業者と連携した作業の負担軽減に向けた研究
L ⑤農業者と連携した低コスト化に向けた研究

■取組状況と今後の予定

課名	令和5年度までの取組状況	KPIの状況を踏まえた検証	目標達成に向けての取組・改善内容
農林振興課	生産量の増及び付加価値の高い農産物の生産を目指しBLOF理論講習会及び実証を行った。	現在、市内農業者がBLOF理論を実践しており、今後、有機農業取組者の増につながると思料する。	オーガニックビレッジ宣言、BLOF理論講習会等を開催することにより、有機農業の基盤を醸成していく。

第2期朝来市創生総合戦略アクションプラン推進状況

基本目標2 魅力ある多様な「しごと」づくり

◆儲ける農林畜産業への転換

◎森林の利活用の推進

1 林業の成長産業化を推進する

■目標に向けたアクション体系

1 森林資源を活用する

- └ ①FSC取得認証など建築材としてのブランド化の推進
- └ ②ミツマタなど林床植物の商品化
- └ ③木質バイオマスの推進
- └ ④建築・加工品など木材の地産地消の推進

2 林業の担い手を確保する

- └ ⑤林業の魅力の発信
- └ ⑥林業フェアへの参加

■取組状況と今後の予定

課名	令和5年度までの取組状況	KPIの状況を踏まえた検証	目標達成に向けての取組・改善内容
農林振興課	森林環境譲与税を活用し、木質バイオマス発電所への木材の搬出支援、薪ストーブ等の設置促進、地域産材を使った木育用玩具の制作と新生児への配布を新規事業として実施した。	成果指標は達成しているが、既存事業の継続により、更なる素材生産の推進を図るとともに、林業労働者の確保に向けた制度の新設等、未達の活動指標についても達成に向けた取り組みを進める。	令和6年度の新たな事業として、林業従事者の社会保障制度掛け金支援、小学生を対象とした林業事業体による森林環境教育を開始する。

第2期朝来市創生総合戦略アクションプラン推進状況

基本目標2 魅力ある多様な「しごと」づくり

◆儲ける農林畜産業への転換

◎森林の利活用の推進

2 森林が持つ公益的機能の増進を図る

■目標に向けたアクション体系

1 環境資源としての森林を守る取組を推進する

- L ⑦広葉樹林化などの環境林の整備
- L ⑧環境教育の推進

■取組状況と今後の予定

課名	令和5年度までの取組状況	KPIの状況を踏まえた検証	目標達成に向けての取組・改善内容
農林振興課	手入れ不足の人工林の間伐整備（私有林整備）により、下層植生を呼び込み、多様性と防災性の向上を図っている。 また、地域産材を使った木育用玩具の制作と新生児への配布を新規事業として実施した。	私有林整備面積は策定当初に比べて順調に増加している。	私有林整備については森林環境譲与税を活用し継続的に実施していく。令和6年度には小学生を対象とした林業事業体による森林環境教育を開始する。

第2期朝来市創生総合戦略アクションプラン推進状況

基本目標3 誰もが希望を持ち、心豊かに安心して暮らせる「まち」づくり

◆地域コミュニティを基盤とした誰にも居場所と役割のあるまちづくり

◎地域特性を生かした地域の主体的なまちづくりの推進

1 多様な主体による主体的・自律的な地域経営を推進する

■目標に向けたアクション体系

1 地域住民の意見が反映される仕組みをつくる

- └ ①多様な主体による地域での対話の場づくり
- └ ②住民アンケート調査等による地域住民の意見の把握

2 多様な主体が参画する

- └ ③地域住民への地域情報の発信
- └ ④誰もが自分のことで参画可能な仕組みづくり
- └ ⑤ネット活用等による誰もが参画できる会議手法の導入

■取組状況と今後の予定

課名	令和5年度までの取組状況	KPIの状況を踏まえた検証	目標達成に向けての取組・改善内容
市民協働課	オンライン研修やSNSを使った情報発信の手法等、多様な主体が参加できるこれからの地域づくりについて学ぶ機会を提供した。また、各地域自治協議会のまちづくり計画の見直しをアドバイザーとともに支援してきた。見直しに際し、全住民アンケートの実施や対話の場づくりを取り入れるよう促した。	地域づくりの学びの場や対話の場は提供してきたものの、コロナ禍において地域の事業展開に制限がかかったことにより目標値を下回っている指標も見受けられる。	コロナによる規制制限も解除されたため、今後も引き続き多様な主体が参加できる場を引き続き提供するとともに、内容もブラッシュアップしながら事業展開を図る。

第2期朝来市創生総合戦略アクションプラン推進状況

基本目標3 誰もが希望を持ち、心豊かに安心して暮らせる「まち」づくり

◆地域コミュニティを基盤とした誰にも居場所と役割のあるまちづくり

◎地域特性を生かした地域の主体的なまちづくりの推進

2 多様な主体による主体的・自律的な地域経営を支援する

■目標に向けたアクション体系

1 地域の主体的な活動を支援する

- └ ⑥地域自治協議会等への必要に応じた伴走型支援
- └ ⑦アドバイザーの招へい
- └ ⑧多様な市民活動の活動促進支援
- └ ⑨市内の多様な主体や多様な活動をつなぐ対話の場づくり

2 地域づくりの学びの場をつくる

- └ ⑩地域自治協議会運営等の地域づくりの学びの場の開催
- └ ⑪地域リーダー育成に向けた取組

■取組状況と今後の予定

課名	令和5年度までの取組状況	KPIの状況を踏まえた検証	目標達成に向けての取組・改善内容
市民協働課	地域まちづくり計画の見直しを行う地域自治協議会に対して、必要に応じてアドバイザーを招聘し支援してきた。また、3市連携による地域自治協議会向けの研修の開催を行い、これからの地域づくりについて学ぶ機会を提供してきた。	地域づくりの学びの場や対話の場は提供してきたものの、コロナ禍において地域の事業展開に制限がかかったことにより目標値を下回っている指標も見受けられる。	コロナによる規制制限も解除されたため、今後も引き続き多様な主体が参加できる場を引き続き提供するとともに、内容もブラッシュアップしながら事業展開を図る。

第2期朝来市創生総合戦略アクションプラン推進状況

基本目標3 誰もが希望を持ち、心豊かに安心して暮らせる「まち」づくり

◆誰もが安心して楽しく暮らせるまちづくり

◎一人一人が地域とつながりを持ち安心して自分らしく暮らすことができる地域共生社会の実現

1 地域での多様なつながりの場をつくる

■目標に向けたアクション体系

1 属性・テーマの横断的なつながりをつくる

- └ ①多様な人が集う複合的な地域の居場所づくり
- └ ②誰もが自分のできることで役割を持つ
- └ ③参加しやすいオープンな場づくり
- └ ④地域内で声をかけ参加しやすい雰囲気づくり
- └ ⑤多様な主体と連携した事業・場づくり

2 属性・テーマごとなど多様なつながりをつくる

- └ ⑥参加しやすい小さな単位の場づくり
- └ ⑦短時間・子連れ参加など誰もが参加しやすい場づくり
- └ ⑧地域の多様な集いの場などの情報発信
- └ ⑨多様性を認め合う地域の雰囲気づくり

■取組状況と今後の予定

課名	令和5年度までの取組状況	KPIの状況を踏まえた検証	目標達成に向けての取組・改善内容
社会福祉課	民生委員・児童委員の活動や役割について啓発を行い、地域での見守りや声掛けを行った。コロナ禍における地域での関わり方についても工夫し切れ目ないつながりづくりに務めた。	民生委員・児童委員の活動や役割について啓発を行い、地域での見守りや声掛けを行った。	継続して民生委員・児童委員の活動や役割について啓発を行い、地域での見守りや声掛けを行う。また各種研修を実施し活動を支援する。 今後、多様な主体と協働し、連携した場づくりに務めるなど、包括的な支援体制の整備を進めていく。
高年福祉課	老人福祉センターや介護予防施設等において各種団体が活動できる場として施設管理を実施した。	管轄する施設において、新型コロナ影響により利用が大幅に減少した年度に比べると令和5年度の利活用状況は持ち直しつつあるが、コロナ以前には戻り切っていない。	各施設ともに老朽化が進んでいる状況だが、各施設・設備に関して必要に応じてメンテナンスを施すなど、引き続き各種団体に気持ちよく施設を利用いただくために、適切な管理を行う。
包括支援センター	コロナ禍により高齢者の集いも自粛されたが、徐々に回復できるよう支援した。 集いのない地域に着目し、集うことのきっかけづくりをした。	いきいき百歳体操や地域ミニデイはほぼ目標を達成しつつある。	実施できているところは活動が継続できるよう、未実施地区については「つどいの場モデル事業」を短期利用し、集うことのきっかけづくりを行う。

第2期朝来市創生総合戦略アクションプラン推進状況

基本目標3 誰もが希望を持ち、心豊かに安心して暮らせる「まち」づくり

◆誰もが安心して楽しく暮らせるまちづくり

◎一人一人が地域とつながりを持ち安心して自分らしく暮らすことができる地域共生社会の実現

2 地域で孤立しがちな方とのつながりをつくる

■目標に向けたアクション体系

1 地域の人・集いの場などをつなげる機会をつくる

- └ ⑩地域で孤立しがちな方への声かけ
- └ ⑪孤立しがちな方が相談しやすい関係づくり

2 多様なつながりのかたちをつくる

- └ ⑫事業・行事等に参加しなくても地域の中でつながりを持つ

■取組状況と今後の予定

課名	令和5年度までの取組状況	KPIの状況を踏まえた検証	目標達成に向けての取組・改善内容
社会福祉課	民生委員・児童委員や朝来市社会福祉協議会の活動をととして地域のつながりを支援していく。また、ひきこもり自立支援委託業務によるひきこもりの居場所や訪問支援の充実を図った。	今後増加すると推測される孤立しがちな方への対策として、R5から居場所を1カ所増やす等体制づくりに務めた。	継続して民生委員・児童委員や朝来市社会福祉協議会をととして地域のつながりを支援していく。ひきこもり等の居場所や個別訪問のあり方について研修会を行う等支援団体のスキルアップを目指す。
高年福祉課	地域での高齢者の健康づくり活動のため老人クラブの活動に対する補助を実施し、支援を行った。	クラブ数、会員数ともに前年度に比べ減少している。(クラブ数66→60 会員数2,326人→2,111人) 老人クラブの衰退は、地域社会の人間関係の希薄化が進行している昨今、地域社会の活力の減退にそのままつながりかねず、活動の活性化及び次世代への継承は、老人クラブに課せられた最重要課題である。	クラブ数や会員数の減少は、就労年齢の高齢化に加え、ライフスタイルの変化など様々な問題が考えられるが、老人クラブは高齢者が地域社会とのつながりを維持する上で極めて重要な位置づけであることを踏まえ、引き続き、活動に対する補助を実施するとともに、クラブの衰退に歯止めをかけるべく、関係機関と連携し、今後の老人クラブの在り方、方向性等について合意形成を図る必要がある
包括支援センター	体操やミニデイがない地域は高齢者の孤立が予測されるため、「つどいの場モデル事業」を行い、8地区に各3回程度支援し事業を実施した。	継続した新たなつどいの場の増加は緩やかで、今後は急激には増えないとみている。	定期的に支援者が実施すると集うことができるため、地域の福祉法人等と連携し、集いのない地域の継続支援をおこなう。

第2期朝来市創生総合戦略アクションプラン推進状況

基本目標3 誰もが希望を持ち、心豊かに安心して暮らせる「まち」づくり

◆誰もが安心して楽しく暮らせるまちづくり

◎在住外国人など多様な人が安心して暮らすことができる多文化共生社会の実現

1 在住外国人などの暮らしの困りごと等を把握する

■目標に向けたアクション体系

1 在住外国人の困りごとを把握する

└ ①在住外国人との対話の場づくり

2 企業や地域住民の困りごとを把握する

└ ②企業や地域住民との対話の場づくり

■取組状況と今後の予定

課名	令和5年度までの取組状況	KPIの状況を踏まえた検証	目標達成に向けての取組・改善内容
人権推進課	日本語教室の開催場所を2か所に拡充し、交流イベントなどにより在住外国人と地域住民との交流を促進した。	在住外国人の増加に伴い、日本語教室のニーズも徐々に増加している。 学習者に加え、ボランティア支援の数も増加している。	在住外国人のニーズを把握しNPOなどを含め市民や事業所など地域社会で共有し、互いに支援できる仕組みにつなげる。

第2期朝来市創生総合戦略アクションプラン推進状況

基本目標3 誰もが希望を持ち、心豊かに安心して暮らせる「まち」づくり

◆誰もが安心して楽しく暮らせるまちづくり

◎在住外国人など多様な人が安心して暮らすことができる多文化共生の実現

2 まちの情報を在住外国人に伝える

■目標に向けたアクション体系

1 多言語対応による情報発信を行う

- └ ③日常の暮らしに必要な情報の多言語化
- └ ④災害時の対応方法や防災情報などの多言語化

2 在住外国人とのコミュニケーションを促進する

- └ ⑤日本語教室の開催
- └ ⑥在住外国人が参加できるイベントの開催

■取組状況と今後の予定

課名	令和5年度までの取組状況	KPIの状況を踏まえた検証	目標達成に向けての取組・改善内容
人権推進課	在住外国人のための生活支援ガイドを作成した。 日本語教室を拡充し、市民と外国人との交流が深まった。	日本語教室などにより、様々な交流が深まっている。	日本語教室などを通じて在住外国人や外国人を雇用する事業所・企業へ生活支援ガイドなどの生活情報を提供する。

第2期朝来市創生総合戦略アクションプラン推進状況

基本目標3 誰もが希望を持ち、心豊かに安心して暮らせる「まち」づくり

◆誰もが安心して楽しく暮らせるまちづくり

◎在住外国人など多様な人が安心して暮らすことができる多文化共生の実現

3 在住外国人と地域の人とのつながりをつくる

■目標に向けたアクション体系

1 互いの文化を理解する

Ｌ ⑦在住外国人が日本文化を学ぶ場づくり

Ｌ ⑧外国の文化を学ぶ場づくり

2 居住地でのつながる場をつくる

Ｌ ⑨企業と連携による在住外国人の地域行事への参加促進

■取組状況と今後の予定

課名	令和5年度までの取組状況	KPIの状況を踏まえた検証	目標達成に向けての取組・改善内容
人権推進課	フランス・バルビゾン村との交流（高校生派遣）、日本語教室における在住外国人と地域の人交流を行った。	日本語教室などにより、様々な交流が深まっている。	フランス・バルビゾン村との交流（村長他の招聘）、中学生の国際交流（アメリカ・ニューバーグのシャヘイラムバレー中学校）、日本語教室における在住外国人と地域の人交流を促進する。

第2期朝来市創生総合戦略アクションプラン推進状況

基本目標3 誰もが希望を持ち、心豊かに安心して暮らせる「まち」づくり

◆誰もが安心して楽しく暮らせるまちづくり

◎誰もが生きがいを感じ健やかで幸せに暮らすことができる健幸づくりの推進

1 健幸づくりへの意識の向上を図る

■目標に向けたアクション体系

1 健幸づくりに対する普及啓発を推進する

- └ ①地域・学校・職場での健康教室の開催
- └ ②健幸づくりポイント事業を活用した啓発の推進

■取組状況と今後の予定

課名	令和5年度までの取組状況	KPIの状況を踏まえた検証	目標達成に向けての取組・改善内容
健幸づくり 推進課	①は、令和5年度には自治協との協働による健康教室を再開した。また“働く世代への健康づくりの支援”として、自身の現状を知り生活習慣を見直す機会となるよう「ストレス・疲労度測定」を1事業所あたり3年間継続実施し、市内の7事業所において実施している。測定結果の指導にあわせてこころの健康を含む“健康づくり”に関するリーフレットや健康行動の実践を後押しできるよう「あさGO！健幸づくりカレンダー」の配布も行った。 ②は、健幸づくりカレンダーの配布や交換・寄附申請窓口を本庁、各支所、生涯学習センター、各地域自治協議会が担う等協力体制をとっている。また、令和5年度からオンライン申請も開始した。参加者の状況は、令和5年度においては申請者1028人の内、60歳代以上が73.6%で70歳代が最も多い。ポイントの寄附・交換品の状況はごみ袋（大・小）への交換が多い。	①は、新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行したことにより集団での健康教室が再開できた。 ②は、個人に加え市内事業所等での継続した取組みによりポイント交換・寄附申請者は年々増加しており、市民の運動を始めるきっかけづくりやその習慣化、定期的な健康（検）診の受診、生活習慣の見直し等の機会となっている。また自治協への寄附は健康づくりに関する事業に活用していただくこととしており、地域での健康づくりの取組みの一助となるため本事業は継続実施する必要がある。若い世代の参加が少ないことから、20歳代・30歳代等の健康づくりの取組み促進に向けて、事業への参加のしやすさ、交換品なども再考しながら、本事業の在り方を検討をする必要がある。	①は、地域や学校・事業所等と実施方法や内容について協議しながら計画していく。市内事業所が職員の健康管理の一環として取り組んでいたけるよう、健康づくりについて機会あるごとに周知をしていく。 ②は、幅広い年代の人が取り組みやすい工夫として、令和4年度から市ホームページで健幸づくりカレンダーをダウンロードできるよう改善、令和5年度からはオンライン申請の受付も開始した。今後は事業の継続にあたり、さらに若い世代が取り組みやすく、より魅力のある事業となるよう、ポイント交換・寄附の内容やポイント事業のアプリ導入などデジタル化を検討していく。

第2期朝来市創生総合戦略アクションプラン推進状況

基本目標3 誰もが希望を持ち、心豊かに安心して暮らせる「まち」づくり

◆誰もが安心して楽しく暮らせるまちづくり

◎誰もが生きがいを感じ健やかで幸せに暮らすことができる健幸づくりの推進

2 疾病・介護予防や健康増進の取組を推進する

■目標に向けたアクション体系

1 多様な主体による健康増進の取組を推進する

- └ ③家庭・地域・職場での健康づくり活動の推進
- └ ④子どもから大人までの食育の推進
- └ ⑤ウォーキングなど地域での運動習慣づくりの推進
- └ ⑥定期的な健診（検診）受診の推進
- └ ⑦医療費分析による効果的な疾病予防活動の推進

2 家庭・地域での介護予防の取組を推進する

- └ ⑧あさごいきいき百歳体操等による地域での介護予防の推進
- └ ⑨地域ミニデイの開催等による高齢者のお出かけの機会の創出

■取組状況と今後の予定

課名	令和5年度までの取組状況	KPIの状況を踏まえた検証	目標達成に向けての取組・改善内容
健幸づくり 推進課	③は、医師会・歯科医師会等と連携しながら実施した。 ④は、広報、CATV、ホームページ、公式SNS等を活用した積極的な情報発信や切れ目のない食育の推進を目指した庁内栄養士による協議を実施した。「いずみ会」活動への支援やリーダー養成講座の開催など家庭・地域での活動への支援を実施。 ⑤は、健幸づくりポイント事業やノルディックウォーキング教室の開催。運動効果の高いウォーキングコースの選定とコースマップの配布やCATVで周知した。 ⑥は、感染症対策等の安全・安心に受診できる環境を確保。健診周知チラシの工夫や市SNSやCATV等を活用した積極的な受診勧奨を実施。新たな健診項目を追加し、身近な会場で人間ドック並みの項目が受診できる工夫を実施した。 ⑦は、健幸づくり推進協議会において健診結果や医療費分析の結果から見た効果的な対策を協議、事業に活かしている。	③は、希望者だけでなく教室案内の勧奨方法を見直しをすることで新規参加者が増えた。また、オンラインでの受講申込を取り入れたことで、参加者の増加につながった。 ④は、令和5年度から地域での「いずみ会」のグループ活動等が再開でき、自主的な食育活動につながっている。食育推進を目指した映像を作成しCATV、公式SNSでの配信を実施したが、視聴者の状況把握がしづらい。 ⑤は、ウォーキングコースの活用を推奨することで、健康づくりに取り組む市民が増加するとともに、運動効果が高いウォーキングの体験ができています。 ⑥は、健診（検診）受診率は増加傾向から横ばいであるが、令和5年度に実施したオンラインでの申込みは反響があったことから、令和6年度の各種健診（検診）申込みから併用し、申込みやすい環境づくりが継続して求められている。	③は、教室は集合型で実施しつつも、受講勧奨を工夫し健康づくりに参加する人を増やしていく。内容や実施方法について地域や学校・職場等とともに検討する。 ④は、栄養士の庁内打合せ会議や農林振興課等の関係部署と連携をとりながら、切れ目のない食育の推進にむけて協議・検討、実践していく。また、食育情報を発信する際は、わかりやすく、家庭でも取り入れやすい内容を検討し情報発信に努めている。 ⑤は、引き続き7つのウォーキングコースの周知をする。また、関係部署等にも周知・活用を推奨していくとともに、新たなコースのマップ化を検討していく。 ⑥は、受診率向上にむけた受診勧奨の方法や受診費用補助等について検討するとともに、申込みやすい環境づくりを行っていく。 ⑦は、健幸づくり協議会での協議や庁内関係課との連携した事業実施ができるよう推進体制の検討を行う。
高年福祉課	令和5年度取り組みなし		

包括支援 センター	高齢者へのフレイル予防を目的とした栄養教室を実施し、健幸づくり推進課と連携して「高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施事業」を行いフレイル予防を強化した。	いきいき百歳体操や地域ミニデイなど集って活動することそのものが介護予防であり、そのような地域は栄養教室も実施しやすい。実施か所は緩やかに増えている。	現在実施の地域は継続して支援し、集いのない地域の支援として、フレイル予防の講話など介護予防の内容を加えて実施する。
----------------------	--	---	--

第2期朝来市創生総合戦略アクションプラン推進状況

基本目標3 誰もが希望を持ち、心豊かに安心して暮らせる「まち」づくり

◆まちづくりや市民の暮らしを支えるための連携の強化

◎地域間連携・政策間連携などによる効果的・効率的な事業の推進

1 市内の多様な主体相互の連携による事業推進を展開する

■目標に向けたアクション体系

1 互いの得意分野を生かしあう関係性を構築する

- L ①多様な主体がつながる場づくり
- L ②地域自治協議会相互の連携
- L ③地域と学校の連携
- L ④地域と企業の連携
- L ⑤企業と行政の連携

■取組状況と今後の予定

課名	令和5年度までの取組状況	KPIの状況を踏まえた検証	目標達成に向けての取組・改善内容
市民協働課	市内11地域自治協議会の連絡会議、3市連携事業による研修会や意見交換会を開催し、地域自治協議会の相互連携や近隣市との連携を促進した。	地域づくりの学びの場や対話の場は提供してきたものの、コロナ禍において地域の事業展開に制限がかかったことにより目標値を下回っている指標も見受けられる。	コロナによる規制制限も解除されたため、今後も引き続き多様な主体が参加できる場を引き続き提供するとともに、内容もブラッシュアップしながら事業展開を図る。
学校教育課	各学校に学校運営協議会を設置し、保護者や地域住民が学校運営に参画し、学校・家庭・地域の連携・協働により地域全体で子どもたちを見守り、育てる取組ができた。	各学校で学校運営協議会を開催したが、学校運営協議会とは、地域住民が学校運営等に参画し、学校・家庭・地域の連携・協働により地域全体で子どもたちを見守り、育てる組織であるという認識を共有することができず、目標達成に至らなかった。	今後も各学校運営協議会委員による情報交換会を開催し、学校運営協議会の取組の充実・発展を図る。また、児童生徒の意見が反映される機会を作る。学校運営協議会の活動についてホームページにより周知し、地域との協働による学校づくりに取り組んでいく。
経済振興課	・事業所周辺のごみ拾い等、自発的な環境美化への取組み。 ・多様な働き方に資する取組みとして、お仕事大相談会への参加。	事業所周辺のごみ拾い等、企業の社会的責任（CSR）に市内事業所が取組んでいる。 多様な働き方に資する取組みとして、お仕事大相談会に多数の事業所が参加している。	市民社会の一員として、企業にも社会貢献活動に協力いただくよう、取組みを進める。 女性活躍推進を市全体の取組みと捉え、市内事業者にも参加を呼びかける。

第2期朝来市創生総合戦略アクションプラン推進状況

基本目標3 誰もが希望を持ち、心豊かに安心して暮らせる「まち」づくり

◆まちづくりや市民の暮らしを支えるための連携の強化

◎地域間連携・政策間連携などによる効果的・効率的な事業の推進

2 市外の多様な主体との連携による事業推進を展開する

■目標に向けたアクション体系

1 広域的なプロジェクト実施のための関係性を構築する ⑥観光・交通等施策分野の連携 ⑦但馬地域・福知山市・丹波市など生活圏域の連携 2 互いの得意分野を生かしあう関係性を構築する ⑧大学・専門職大学等との連携

■取組状況と今後の予定

課名	令和5年度までの取組状況	KPIの状況を踏まえた検証	目標達成に向けての取組・改善内容
総合政策課	但馬地域では豊岡市を中心市とした第3次但馬定住自立圏共生ビジョンを策定している。 また、隣接する福知山市・丹波市と連携し、共通する地域課題の解決に向けた取組を進めるとともに、交付金の採択に向けて3市連携を進めている。 また、福知山公立大学、芸術文化観光専門職大学と連携し、人材育成事業等に取り組んでいる。	それぞれの連携の特徴を活かしながら、連携を行うことで、効果的・効率的な事業推進が展開できている。 採択を受けている交付金事業については、より効果的な活用となるよう、計画的な事業推進が必要である。	それぞれの特徴を活かし、但馬定住自立圏や隣接する福知山市・丹波市との連携、大学連携等を進める。 採択を受けている交付金事業については、3市連携の方向性をもとに、計画的に事業計画をたて、事業を推進する。 また、新たな行政課題等に対して、広域連携することで効果的・効率的な事業があれば、必要に応じて相手方と調整する。
観光交流課	山城サミット連絡協議会、日本遺産「銀の馬車道・鉱石の道」推進協議会、HYOGO Medioフィルムコミッション、北近畿広域観光連盟など広域連携での観光推進を図った。 また芸術文化観光専門職大学との連携を進め、教員との連携事業や実習の受入れ、ゼミ生との交流を通じ、課題解決と観光振興に向けて取り組んだ。	左記の団体をはじめとした各種関連団体と連携したイベント実施等、観光施策を展開した。	引き続き、左記の団体をはじめとした広域を含めた各種関連団体と連携した観光施策を展開し、多言語での情報発信など観光誘客に取り組む。

第2期朝来市創生総合戦略アクションプラン推進状況

基本目標3 誰もが希望を持ち、心豊かに安心して暮らせる「まち」づくり

◆まちづくりや市民の暮らしを支えるための連携の強化

◎持続可能な地域公共交通による安心した暮らしの実現

1 多様な主体が連携・協働する

■目標に向けたアクション体系

1 公共交通の利用を促進する

- └ ①地域・交通事業者と連携した利用促進に向けた取組の推進
- └ ②バス待ち環境の整備

2 公共交通への理解を深める

- └ ③地域・学校等と連携した学びの場づくり

3 公共交通事業者の担い手を確保する

- └ ④学校等と連携した企業の魅力発信等による担い手の確保

■取組状況と今後の予定

課名	令和5年度までの取組状況	KPIの状況を踏まえた検証	目標達成に向けての取組・改善内容
都市政策課	令和5年度も前年度に引き続き、①地域公共交通に対する意識の醸成、②地域の実情に応じた新たな移動手段の導入に向けた検討、③JR播但線をはじめとする地域公共交通の利用促進の3本柱で取組を進めた。 一方、公共事業者の担い手を確保するための取組については十分に取り組むことができなかった。	利用促進については、一過性の取組ではなく継続していくことが重要である。 また、新たな利用促進に向けた取組持続可能な公共交通体系の構築を図り、安心して免許返納できるような環境を目指す必要があるため、継続して市民ニーズを把握しながら取り組む必要がある。	引き続き、①～③の3本柱に沿って施策展開を図るとともに、デマンド型乗合交通を利便性良く幹線となる鉄道や路線バスに繋ぐことで、公共交通の利便性向上を図っていく。

第2期朝来市創生総合戦略アクションプラン推進状況

基本目標3 誰もが希望を持ち、心豊かに安心して暮らせる「まち」づくり

◆まちづくりや市民の暮らしを支えるための連携の強化

◎持続可能な地域公共交通による安心した暮らしの実現

2 新たな移動手段の導入・検討を進める

■目標に向けたアクション体系

1 地域特性に応じた移動手段の導入・検討を進める

- └ ⑤先進技術導入に向けた研究
- └ ⑥地域特性に応じた効率的な移動手段の導入（実証実験含む）

■取組状況と今後の予定

課名	令和5年度までの取組状況	KPIの状況を踏まえた検証	目標達成に向けての取組・改善内容
都市政策課	令和5年度は、前年度に行った実証実験や公共交通に関する全世帯アンケート、市内11会場で行ったまちづくりフォーラム等を通じて得られた市民意見を取りまとめ、コミュニティバス（アコバス）に代わる移動手段として、デマンド型乗合交通を市内全域に導入する方針を決定した。	概ね計画どおり進捗している。	昨年末に策定した、「朝来市公共交通網形成計画の推進に向けた第3次再編指針」に基づいて、コミュニティバス（アコバス）に代わる新たな移動手段として、市内全域にデマンド型乗合交通を導入する。

第2期朝来市創生総合戦略アクションプラン推進状況

基本目標3 誰もが希望を持ち、心豊かに安心して暮らせる「まち」づくり

◆まちづくりや市民の暮らしを支えるための連携の強化

◎市民の多様な活動や暮らしを支えるための公共施設の適正配置

1 暮らしや活動に応じた利用しやすい公共施設にする

■目標に向けたアクション体系

1 公共施設の適正配置について理解を深める

- ①多様な主体による対話の場づくり

2 公共施設の有効活用に向けた環境をつくる

- ②公共施設の利用に係る周知啓発・利便性向上への取組
- ③長寿命化に向けた適正な管理の推進
- ④利用実態にあわせた施設の機能の見直し

■取組状況と今後の予定

課名	令和5年度までの取組状況	KPIの状況を踏まえた検証	目標達成に向けての取組・改善内容
総合政策課	令和3年3月に策定した公共施設再配置計画に基づき、維持・長寿命化の方針が出された施設については、令和4年度に予防保全計画を策定した。	公共施設再配置計画策定の際にはワークショップ等を開催し、対話の場を設けることができたが、マネジメントの段階では総括課としては開催が難しい。一方で施設担当課による個別施設に係る利用者への説明等は行われている。	公共施設再配置計画に基づき、個別施設の再配置に向けて施設担当課による利用者等との調整が進みやすいよう、適宜、公共施設再配置の考え方等についての周知啓発を図る。

第2期朝来市創生総合戦略アクションプラン推進状況

基本目標3 誰もが希望を持ち、心豊かに安心して暮らせる「まち」づくり

◆まちづくりや市民の暮らしを支えるための連携の強化

◎市民の多様な活動や暮らしを支えるための公共施設の適正配置

2 公共施設の持続可能な運営を行う

■目標に向けたアクション体系

1 公共施設にかかるコストを削減する

- └ ⑤利用者の適正な負担（利用料の見直し）
- └ ⑥公共施設の総量の縮減に向けた取組の推進

■取組状況と今後の予定

課名	令和5年度までの取組状況	KPIの状況を踏まえた検証	目標達成に向けての取組・改善内容
総合政策課	令和5年度に改定が必要な使用料を見直し、使用料の適正化を図った。 また、公共施設の総量の削減にあたっては、公共施設再配置計画に基づき計画的に推進できるよう、施設担当課ヒアリング等を行いながら公共施設マネジメントの取組を推進している。	使用料の見直しについては、適正化を図ることができた。 公共施設の総量縮減については、少しずつではあるが進んでいるものの、補助金適正化法により取壊し年限に達していない廃止施設があるなど、取壊しが進みにくい状況がある。	使用料の見直しは令和5年度に行ったため、今後10年間は据え置くこととしているが、社会経済情勢等を把握しながら引き続き使用料の適正化に努める。 公共施設の総量縮減については、施設担当課ヒアリングを充実しながら公共施設マネジメントの取組を推進していく。

第2期朝来市創生総合戦略アクションプラン推進状況

基本目標3 誰もが希望を持ち、心豊かに安心して暮らせる「まち」づくり

◆まちづくりや市民の暮らしを支えるための連携の強化

◎生物多様性の保全と持続可能な利用による自然共生社会の実現

1 生物多様性について市民一人一人が理解を深め、意識を持ち生活する

■目標に向けたアクション体系

1 朝来市の生物多様性の実態を把握する

- Ｌ ①多様な主体と連携し希少野生植物の生息・生育状況の調査
- Ｌ ②朝来市レッドデータブックの作成

2 生物多様性の保全に向けた活動を推進する

- Ｌ ③保全・持続可能な利用に向けた生物多様性戦略策定
- Ｌ ④オオサンショウウオ・コウノトリ保全に向けた活動
- Ｌ ⑤生物多様性の保全に向けた活動
- Ｌ ⑥保全に向けた活動団体等の育成
- Ｌ ⑦生物多様性など自然と共生する農林畜産業の推進

3 生物多様性への理解を深める機会をつくる

- Ｌ ⑧環境教育プログラム等理解を深めるためのプログラムづくり
- Ｌ ⑨地域・学校等での生物多様性について触れる場・学びの場づくり
- Ｌ ⑩生物多様性を学ぶ観光体験プログラムの展開

■取組状況と今後の予定

課名	令和5年度までの取組状況	KPIの状況を踏まえた検証	目標達成に向けての取組・改善内容
市民課	多様な主体と連携し、市内における生物種の把握に努めた。また、環境教育プログラム作りを進め、地域や学校で生物多様性について触れる場・学びの場づくりを推進した。	目標数値は達成しているが、より一層の推進を図る。	令和7年度以降に生物多様性地域戦略の策定を目指す。その過程で、市レッドデータブックの作成、保全活動、活動団体の育成、環境教育プログラムの充実などが関わってくる。また、環境問題を考える上で、生物多様性、地球温暖化、プラスチック（廃棄物）など多くのことが深く関わってくることを啓発し推進していく。
文化財課	・市内河川のオオサンショウウオ生息調査を実施した。 ・令和4年度に策定した朝来市黒川自然環境基本構想をもとに、黒川自然公園センターを自然環境保護施設として整備する方向性を定めた。また、県から施設の無償譲渡を受け、改修に向けた実施設計を行っている。	目標数値は達成できている。	地域のオオサンショウウオへの関心が高まっていることから、今後も継続して自然環境保護施設の整備に取り組むとともに、オオサンショウウオの保護、普及啓発へ向けた関係機関との情報共有、地域住民との調整を強化していく必要がある。

農林振興課	多様な生き物を育み、コウノトリも住めるゆたかな文化・地域・環境づくりを目指すための「コウノトリ育む農法」の拡大に取り組んだ。生き物が生息しやすい環境づくりのために、冬に水を張る「冬季湛水」、育苗段階からの有機質肥料の使用、無農薬での安全・	コウノトリ育む農法を実施する農業者は増えているが、雑草除去や病害虫対策が課題であるため、目標とする耕作面積には達成できていない。	雑草・病害虫防止のための栽培技術向上や労力削減について、関係機関と協議し課題解決に取り組んでいく。新たな栽培技術であるBLOF理論（高品質・高収量）を推奨し、環境に優しい地域づくりを推進していく。
観光交流課	体験素材集（内、生物多様性を学ぶ等の自然体験プログラム数3）を作成し、観光として自然を体験してもらえようようなコンテンツの開拓を行った。	目標数値は達成しているが、引き続き関係団体との連携を図り、ひょうごフィールドバビリオンの認定プログラム等、コンテンツの開発を行う。	引き続き、生物多様性を学ぶプログラムを観光コンテンツとして展開し、新たなコンテンツの開拓を行う。